

# はじめに

## テーマを選んだ理由：

現在、日越関係は経済、社会福祉、教育、文化など、いろいろな分野で発展している。その中で、教育は最大の関心事である。日本の会社の採用制度に適応するため、日本語を勉強する必要性がだんだん高まる一方だからである。そこで、日本語教育が重要になるのである。

どの言語も国の文化を表す特徴がある。日本語もベトナム語もそれぞれ文化を表す言語である。それは社会関係での道德標準、民族伝統を大切にする文化である。その中で、コミュニケーションでの呼称形式を含んで、特徴的なのが謙譲語と尊敬語である。コミュニケーションの目的や場面や対象によって、適切な称呼形式を選ぶのである。目上の人や上司やお客様など、相手に敬意を表すため、尊敬語を使う。話し手がする行動や自分の意見を表す場合、謙譲語を使う。自分の謙虚さで、相手に間接的に尊敬を表すためである。

## 先行研究：

### 日本語の文献：

国立国語研究センターの著者所有権の『日本語教育指導参考書 18—敬語教育の基本問題（下）』とは、日本語の敬語の使用法、対象などを言い表す。菊土康人の敬語再入門、蒲谷宏、川口義一、坂本恵の『敬語表現』は敬語を使う具体的例を出す。

ベトナム語の文献：

チャン ゴク テイム、チュ フオアン ズエンの『ベトナム文化基礎』は地方の文化、呼称標準など問題を概括する。

グエン ミン テイエツ、グエン ブアン ヒエンの『実行ベトナム語』は文の作り方、言葉の使い方など表す。

チャン テイ キム チュエン グエン テイ ホアン チョアンの『社会学入門』は人間関係、社会関係、共同関係などを明らかにする。

## 研究目標と範囲：

### 目標：

テーマの意味はベトナム語と日本語の呼称で共通点と相違点を明らかにするのである。ほかには、学者に尊敬語と謙譲語の教材を提供する。尊敬語と謙譲語の使用法、場面、よくある間違った使い方などを出す。言語を通して、伝統文化を分かるようになる。

### 範囲：

本論文で研究される敬語はすべて日本語の敬語ではなく、現在の敬語である。だから、宮殿やお寺などで使われる敬語はここで研究されない。

## 研究方法：

- 材料収集：インターネット、本屋、VJCC 図書館などで日本人とベトナム人の著者の文献、参考書を調べて書いた。

- 実際考察：学生の意見を取るために、10 の質問で調査を行った。この調査はベトナム語で 160 印刷されて、ラクホン大学東洋学部日本学科 160 人の四年生を考察対象にした。
- 統計：以上によって、著者が仕事、社会関係などで敬語をなめらかに使える人と使えない人の比率を作表した。そして、コミュニケーションで敬語を使うベトナム人と普通形を使うベトナム人の数を作表した。
- 分析：尊敬語と謙譲語の特徴、使用場面、話題人物、相手などを分析した。テーマに関しての内容を調べた。
- 概括：分析してから、選んで、総合して書いた。そして、先生、学生の意見を参考した。
- 比較：日本語とベトナム語の尊敬語と謙譲語の共通と異別を発見するため、比較した。基本特徴、日常生活文化、称呼習慣などを比較した。比較されたことによって、間違った使い方を少なくする。

### 将来の研究予定：

このテーマは「日本語とベトナム語の尊敬語と謙譲語の共通点と相違点」の範囲で研究する。そこで、もちろん、明らかにならないところがあるかもしれない。その理由で、研究の内容を広くして、発展されるために、以下のように問題を研究しようと思う。

- ー文化が言語を通して、表せる。
- ー日本で日本人の敬語を使う状態。
- ーベトナムでベトナム人の敬語を使う状態。
- ー日本会社でベトナム人の敬語を使う状態。

ー日本語を勉強するときの敬語でよく間違いうい方。

**構成：**

## **第一章：日本語とベトナム語の尊敬語と謙譲語の基本特徴**

尊敬語の基本特徴：相手方を高めて、敬意を表す話し方である。

謙譲語の基本特徴：話し手を低めて、相手方を間接的に高めて、敬意を表す話し方。

## **第二章：日本語とベトナム語の尊敬語と謙譲語の共通点と相違点**

共通点：相手方を高めて、話し手を低める話し方である。

相違点：動詞形式、対象、場面、呼称習慣、コミュニケーション文化などについての違いである。

## **第三章：日本語の尊敬語と謙譲語の教育方法の提案**

教授法：敬語教育においては、まず、教授者が正確な知識を持ち、自信を持って教えられるようになることが必要です。学生を中心にして、実際の場面を設定して、練習させたほうがいいと思います。それから、グループに分けて、テーマを出して、ロールプレイという形で練習をさせてもいいではないですか。なにより教室の中で親切で穏やかな雰囲気を作って学習者に学習動機を与えることだと考えています。

学習法：よく自習し、宿題をする。日本語クラブに参加して、勉強する。教科書だけではなく、参考書を読む。

# 内容

第一章：日本語とベトナム語の尊敬語と謙譲語の基本特徴

第二章：日本語とベトナム語の尊敬語と謙譲語の共通点と相違点

第三章：日本語とベトナム語の尊敬語と謙譲語の教育方法の提案

# 第一章

日本語 と ベトナム語尊敬語

- 謙讓語の基本特徴

コミュニケーションとは、人間の特別な能力だと言われている。国、民族によっては、会話の形は違う。日本語とベトナム語の特色は言葉のレベルに豊かである。それは尊敬語と謙譲語である。その話し方を通して、発言者の態度、感情を表せる。違い使ったら、他人を誤解させるかもしれない。だから、コミュニケーションで言葉の意味を正しく選んで、使うのは大変大切なことである。言い換えれば、それは「コミュニケーションの芸術」である。

## 1.1 日本語の尊敬語と謙譲語の基本特徴：

### 1.1.1 日本語の概括：

日本語とは明確で、厳しい儀式体系がある言語だと言われている。それは、特別に複雑な敬語体系である。その体系は日本社会の秩序を表します。他には、第三者と聞き手と話し手の関係も表す。その通りに、動詞や名詞などが変わる。ですから、目下の人はいつも目上の人に対して、尊敬語を使う。自分のことを話すとき、謙譲語を使うのはもちろん。違い使ったら、失礼だと言われている。日本人を分かるように、日本語を理解するのが必要である。

### 1.1.2 尊敬語の基本特徴：

#### 1.1.2.1 意味：

「尊敬語というのは、目上の人、敬意を表すべき人（親しくない人、「外」の人、尊敬すべき人）が聞き手だったり、話題の人であるとき、その人の所有、所属のもの、また、その人の行為や性質、状態に関して、それを高めて、敬意を表す言葉である」。[12; 1988:14]

れい  
例：

学生：先生は、この本をお読みになりますか<sup>(a)</sup>。

先生：ええ、読みますよ<sup>(b)</sup>。 / ああ、読むよ<sup>(c)</sup>。

もんだい  
問題：

① (a) は、学生がだれの行動について述べたものか。

⇒ 教師。

② (b)、(c) の代わりに、「お読みになる」を使えるか。

⇒ 使えない。

③ (b)、(c) は、教師が、だれの行動について述べたものか。

⇒ 教師自身。

④ (a)、(b)、(c) の中、どれが最も高い敬意を示すのに使う言い方か。

⇒ (a)

⑤ 「お読みになる」は、どんな動詞の敬語か。

⇒ 読む。

⑥ 「先生」は、話し手である学生の話（分の中の）の何に当たるか。

⇒ 話の素材になっている人。ここでは聞き手である教師。

#### 1.1.2.2 使用法：

① 相手方の行動、存在を表す言い方

例：お書きになる、いらっしゃる、なさる

② 相手方を指す言い方

例：A 社の山田課長、山田様

③ 相手方の所有、所属するものを指す言い方

例：お宅、お考え、ご両親

④ 相手方の性質、状態を表す言い方



例：ご立派、おきれい

### 1.1.2.3 尊敬語の形式：

#### ① 接頭語：

例：お名前、ご意見、ご連絡、御社、貴社

#### ② 接尾語：

例：山田さん、山田様、田中様

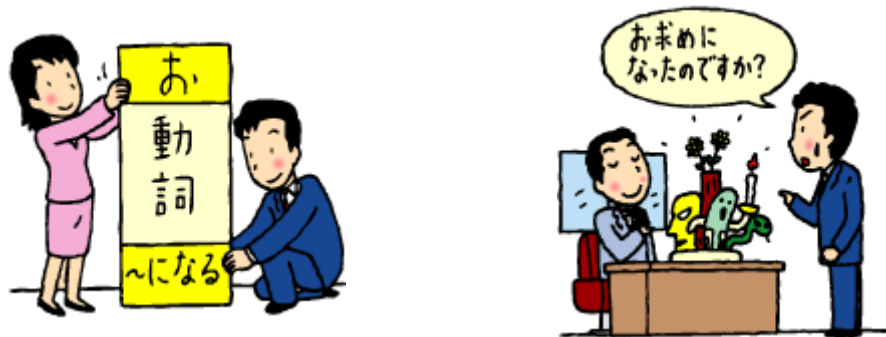
#### ③ 尊敬名詞：

例：山田先生、田中社長、鈴木課長

#### ④ 動詞の連用形、名詞にオ・ゴを付け、規則的に変える場合

「お／ご～になる」

例：修理が終わりましたので、もういつからでもご使用になれます。



出所：<http://ameblo.jp/comkeigo/entrylist.html>

「お／ご～なさる」

例：この本をお読みなさるのでしたら、お貸しいたします。

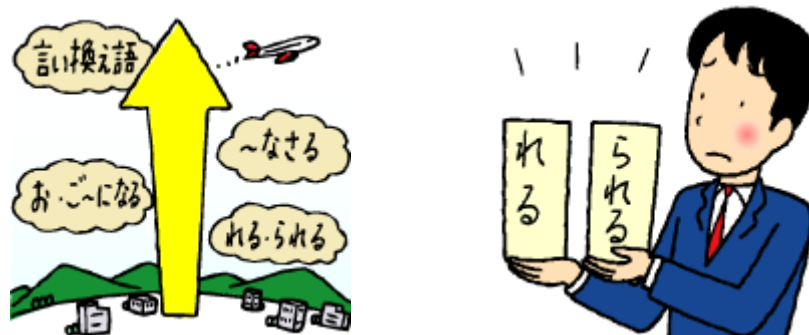
「お／ご～です」

例：お客様がこちらでお待ちです。

「お／ご～くださる／ください」

例：皆様、本日はようこそお越しくございました。

⑤ 「れる／られる」



出所：<http://www.valuep.livedoor.biz>

例：高橋先生は六歳のころ合気道を習い始められて、その後、ずっと続けてこられたそうです。

**1 グループ動詞：**「ます」の前に（「い」行列）読音を変えて、「あ」行列になる。それから、後ろに「れます」を付ける。

例：書きます → 書かれます

話します → 話されます

**2 グループ動詞：**後ろに「ます」を切って、「られます」を付ける。（可能形の動詞と同じ）。

例：教えます → 教えられます

食べます → 食べられます

**3 グループ動詞：**後ろに「します」を切って、「されます」を付ける。

例：案内します→ 案内されます

旅行します→ 旅行されます

例外：します → されます

来ます → 来られます

⑥ 尊敬動詞：

例：する → なさる：社長は休日にたいていゴルフをなさいます。

行く → いらっしゃる・おいでになる：先生はこのたびの国際会議に奥様も連れていらっしゃるそうです。



出所：<http://www.fujistaff.com/skill/manner/keigo/15.html>

**1.1.3 謙譲語の基本特徴：**

1.1.3.1 意味：

「話し手が話し手自身または話題の人（話し手側の人が多くこれに当たる）の行動を、話し手が対策の関係にある人に言うときの言い方より低めて言い表すことによって、結果的には、相手および話題の人を特に丁寧に遇するのに用いる語を謙譲語という」。[12; 1988:14]

謙譲語は、自分を低めて間接的に敬意を表す。話題の下位者の上位者に対する行為の表現を通して、相手がその上位者への配慮を表す敬語。

例：＜客の荷物を、駅から家までだれかが選ぶことを客に言う＞

① お荷物は私がお持ちします。

② お荷物は兄がお持ちします。

③ お荷物はうちの村田がお持ちします。

問題：

a) 例①、②、③の文の主語は何か。

⇒ 私、兄、村田。

b) だれが、荷物を持つのか。

⇒ 私、兄、村田。

c) ①の「私」は、話し手自身である。②と③の「兄」と「村田」は、何に当たるか。

⇒ 話題の人。

d) ②の「兄」は、話し手の身内の者である。

③の「村田」は、話し手の身内、家族でなければ、何に当たる場合想像することができるか。

⇒ 同居人、親戚の者、社員、店員、お手伝い、用務員など。

e) ③の場合、話し手は「村田」を客側の人と考えているか、自分側の人として考えているか。それは何によって分かるか。

⇒ 自分側の人。「うちの....」という言い方でわかる。

f) ①、②、③の「お持ちする」の「お」は、だれに対しての丁寧な言い方であるか。持つのはだれか。

⇒ ここでは、お客様、話し手自身または、話し手側の、話題の人。

#### 1.1.3.2 使用法：

① 自分方の言動を表す言い方

例：いたす、申し上げる

② 自分方を指す言い方

例：わたくしども、母

③ 自分方の所属、所有するものを指す言い方

例：拙宅、粗茶、弊社

1.1.3.3 種類：

① 謙譲語Ⅰ：

「話者や「内」の人が話題のとき、その人を低めることによって聞き手に敬意を表す丁寧語に近いものである。「いたす」、「まいる」、「おる」など」。

[12; 1988:14]

例：わたくしは明日出張で大阪へ参ります。

⇒ 「参ります」は「行きます」の謙譲語である。

② 謙譲語Ⅱ：

「自分の人（話者や「内」の人）の行為などが、敬意を表すべき相手方（親しくない人、「外」の人、尊敬すべき人）に関わり、があつたり、影響を及ぼす際に、自分方を低めることにより相手方を高めるものである。したがって、相手に関係のない自分方の行為や所有には、この謙譲表現は使えない」。 [12;

1988: 14]

例： \* 私は先生の論文を拝見しました。

\* 私は先生の本を拝借しました。

⇒ 「拝見する」、「拝借する」は相手方に関係があつて、謙譲動詞を使う。

\* 私もその映画を見ました。(O)

\* 電車が参ります。(X)

⇒ 「見る」「参る」は相手方に関係がなくて、自分側の事柄であるから、謙譲動詞を使わない。上の「参る」の正しい使い方は「来ます」、つまり「電車が来ます」。

#### 1.1.3.4 謙譲語の形式：

##### ① 接頭語：

例：拙文、弊社、小社、粗茶



出所：<http://www.fujistaff.com/skill/manner/keigo/17.html>

##### ② 接尾語：

例：わたくしども、手前ども

##### ③ 謙譲名詞：

例：私、わたくし、てまえ

##### ④ 動詞の連用形、名詞にオ・ゴを付け、規則的に変える場合

「お/ご～する/いたす」

例：（人に）お知らせする、お届けする、お渡しする、お見せする、お預かりする、ご連絡する、ご案内する、ご招待する....

「お / ご～申し上げます」

例：お喜び申し上げます

「お / ご～いただく」

例：ちょっとお持ちいただければ、すぐお直しいたします。

「お / ご～ねがう」

例：間違いはないと思いますが、念のためお調べ願います。

⑤ 他の形式：

いる → おる

例：明日はご在宅でしょうか。

⇒ 午前中はおりますが、午後はおりません。

する → いたす

例：このような練習は毎日なさるんですか。

⇒ はい、雨さえ降らなければ、毎日いたします。

#### **1.1.4名詞と形容詞にお・ごを付ける形式：**

##### **1.1.4.1 使用法：**

① 相手方の行動や状態や所有などを表すとき：

例：お忙しい中をわざわざおいでいただきまして、ありがとうございます。

② 話し手のことは相手方に関係する

例：先生の温かいご指導のおかげで子供も無事 Waseda 大学に入学できまして、お礼の申し上げようもございません。

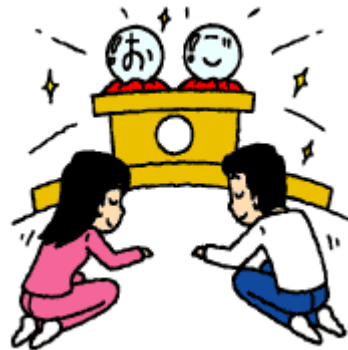
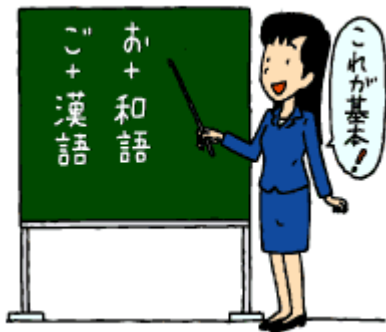
#### 1.1.4.2 使用規則：

① 和語+お：お所、お考え、お答え

例外：ごゆっくり、ごもつとも

② 漢語+ご：ご意見、ご住所、ご質問

例外：お電話、お食事、お風呂、お時間、お世話



出所：<http://www.fujistaff.com/skill/manner/keigo/11.html>

#### 1.1.4.3 お・ごを付けない場合

① 外来言葉：

例：おエレベータ、おクリスマス

② 長い言葉：

例：おじゃがいも、おおこもりかさ

③ 「お」で始める言葉：

例：おもしろい、おいしい、おおきい

④ 自然現象、公共物



例：お雨、お雪、お・ご会社、お・ご駅

⑤ 軽蔑言葉：

例：おまぬけ、おぐず

**1.1.5 丁寧語：**

**1.1.5.1 概括：**

丁寧語とは尊敬の気持ちをこめて言葉自体を美しくいう。

例：「あなたもいらっしゃる」は普通女性の話し方であるが、相手に敬意を表さない。「いらっしゃる」は普通形の動詞から、尊敬を表現しない。良い使い方は「あなたもいらっしゃいますか」である。

**1.1.5.2 表現形式：**

語尾に「です」「ます」「ございます」をつける

「お」「ご」をつける

例：わたくしは田中でございます。

**1.1.6 敬語の相手：**

「内」と「外」意識の源は遥かに昔より連綿と続いてきた。日本は大陸に離された島国である。周りは海に囲まれている。科学と交通のせいで、日本は長い間で孤立され、外部との連絡は少ない。日本は古来から閉鎖的な国である。全体日本にとって、「外」の世界はまったく未知なものである。「外」という概念に対して、ある程度の排斥の心理を持っている。日本の「内」から見ると、日本列島は面積が大きいとは言えないが、非常に狭くて長いのである。また、国土はひとつの全体ではない。島と島の間は距離がある。近いのもあれば、遠いものもある。日本において、集落は村であり、村は本源的にはムレ（群）であった。そのときの日本は現在と同じように、島国ばかりでなく、山国でもある

ので、使用できる土地資源は少ない。日本は単一民族であるから、自分のメリットがある。単一民族、単一言語のおかげで、人々はムレになりやすい。しかし、地理環境の限定でこのムレは全国の日本人ではなく、自然的に形成してくる集合である。自然村のような村である。日本は古い農耕地で、主に稲作を主とする農業国である。科学技術がまだ発達していなかった。人々は自然は対抗力も足りない、天に祈るほかに、自分自身の努力の次第である。ひとつのムレにいる人々は共に努力し、共に収穫する。この時期の人々は自律的、自己自足の生活を送っていた。この人々はひとつの共同体であるし、ひとつの集団である。このような環境の中で、自然的に協力集団を作った。集団を大切にしている。この意識は今まで続いてくる。単一民族は日本の特徴でもあり、日本人の「内」と「外」意識が形成された原因でもある。

「内」とは話し手を中心として、話し手に非常に近い関係の人（子供、兄弟など）、あるいは聞き手に近い関係とされた人なのである。以上から分析すると、日本人にとって「内」は家族、自分の集団内部の人、自分の属するグループなどを指し、「外」とは「血縁のない人、他会社の人、他グループの人」なのである。しかし、この「内」と「外」の間の境界線は永久に変わらないことではない。話し手と聞き手との心理的な距離によって変わるかもしれない。また、時間、立場の変化によって、変わるものだと思う。

#### 1.1.6.1 「内」「外」の 関係

「内」：話し手の家族、会社、グループ ⇨ 謙譲語を使う。

「外」：相手の家族、会社、グループ ⇨ 尊敬語を使う。

#### 1.1.6.2 「上下関係」

「上」：目上の人

「下」：目下の人

話し手と相手の年齢、地位による関係である。それは上司と部下や先輩と後輩などの関係である。したがって、目下の人を目上の人に尊敬語を使わなければならない。自分の言動に対しては謙譲語を使う。

#### 1.1.6.3 「親疎関係」

「親」：家族の人や親友など敬語を使わない。

「疎」：初めて会う人や知らない人など敬語を使う。

### 1.2 ベトナム語の尊敬語と謙譲語の基本特徴：

#### 1.2.1 ベトナム語の概括：

ベトナム語とは、ベトナム人の言語で、ベトナムでの正式な言語である。現在、ベトナム語はラテン文字を使って、書いている。中国から影響されて、ベトナム語には、漢越文字一語彙体系がある。しかし、ほとんどの言葉はベトナム人の認識に合うため、越化されている。だから、中国言語に影響しても、ベトナム語は自分の言語特色を逮捕した。

#### 1.2.2 尊敬語の基本特徴：

##### 1.2.2.1 意味：

ベトナム語辞典により、「尊」とは尊敬、尊重、「敬」は敬意だという意味である。だから、尊敬語は相手方に尊敬を表す話し方である。

##### 1.2.2.2 使用法：

##### ① 家庭の範囲：

親戚呼称：この呼称は親戚の関係に属して、話し方である。親戚の関係は家庭地図で表せた。この地図を見て、家族で一人ずつの位置を分かる。だから、違う称呼がある。祖父母と両親の呼称や両親と子供などは違う。

目上の人に呼称：昔から、ベトナム人は呼称で丁寧な言葉を使って話す伝統がある。両親や祖父母と話すとき、子供たちは丁寧で主語と述語がある話し方を使なければなりません。絶対に主語と述語のない文で話してはいけません。たとえば、

学校に行く前、子供は両親に「お母さん、お父さん、私は学校へ行きますよ。」と言う。目上の人と話すとき、両親や祖父母などの名前を呼んではいけません。それなら、無礼で、丁寧ではありません。家族の位置の名称だけで呼ばれる。Hung さんの祖父と Chinh さんの父と Tai さんのおじなら、名前を呼ばないで、「私は祖父母にご飯をどうぞ召し上がります。私は両親にお茶をどうぞ召し上がります。」と話さなければならない。目上の人に対しては、聞くとき、「何？」という言葉を使ってはいけない。それは丁寧ではないし、失礼な言葉であるから。だから、目上の人に話すとき、話者が「何？」という言葉の代わりに、「何でしょうか。／ 何ですか。」と尊敬で丁寧な言葉を使ったほうがいい。「お父さん、何でしょうか。」などの聞き方がよく使っている。

「何？」というのは、友達、親しい人、目下の人などと話すとき使われる言葉である。ほかには、目上の人に答えるとき、子供たちは「*đạ, ạ, vâng, vâng ạ...*」という言葉を使っている。お母さんが子供に「Mai ちゃん！」と呼んだら、「はい」とすぐ返事する。次、お母さんが「ご飯、できたよ。」と言え、子供たちは「はい、分かりました。」と答える。「うん、分かった。」と答えてはいけない。

夫婦呼称：ベトナム人の夫婦感情は深く、誠意である。彼らは心をこめて、丁寧で、尊重に待遇し合う。ちゃんと教育された夫婦は相手に「おまえ」と呼ばなくて、自分で「ぼく」と言わない。呼ぶとき、彼らは、丁寧で、優しい言葉を使って、話し合う。西洋の夫婦呼称と比べて、ベトナム人の夫婦呼称のほうがずっと多いと言われている。たとえば、英語で「I」と「You」だけあるけ

ど、ベトナム語で、いろいろある。妻と呼称の言葉は「em, mình, bà xã, bà nó...」あって、夫なら、「anh, ông nó, ông xã, mình...」ある。

## ② 社会の範囲：

コミュニケーションに丁寧な言い方：社会の関係で、丁寧な待遇表現が大切な役割を果たすと言われている。それを通して、人間関係が形成して、だんだん強固される。たとえば、道で目上の人に会うとき、「私は祖父母を挨拶します。」や「祖父／祖母はどこへいらっしゃいますか。」と聞いたほうがいい。もし挨拶しないで、行ったまま会えば、失礼だと言われている。ほかには、ちゃんと教育されないと評価されるかもしれない。挨拶文の直後に「ạ」と付けたいと思う。それなら、聞き手は尊敬されると感じる。大切なのは、丁寧な言葉を使うのだけではなく、話者の態度と待遇表現であると思う。コミュニケーション丁寧な呼称程度が聞き手に話者の誠意、尊敬する態度で表される。話者が相手方に尊重する態度がなければ、いくら丁寧な呼称形式を使っても、「丁寧なコミュニケーション」とは言えない。

大勢の人の前に丁寧な言い方：相手側が一人で、2, 3 人ではなく、グループが大勢の人になれば、コミュニケーションに丁寧な程度がもっと大切になると思う。その理由こそ、話者が適当な称呼形式を選んで、話すのが必要である。ベトナム人の昔からの文化伝統によっては、「礼」という言葉を大切にする。

「まず、礼を学んで、後、文を学ぶ」ということわざがあるから。「礼」とは、文化がある人たちの丁寧な行為である。

### 1.2.3 謙譲語の基本特徴：

#### 1.2.3.1 意味：

ベトナム語辞典により、「謙」とは、謙虚、謙遜、「譲」とは、譲歩だという意味である。だから、「謙譲語」とは、謙遜、譲歩という態度を表す言い方で

ある。話者が自慢<sup>じまん</sup>な態度<sup>たいど</sup>を表す言葉を使ってはいけない。

### 1.2.3.2 使用法：

#### ① 家族の範囲：

外の人とうちの成員について話すとき、謙遜、譲歩を表す言葉を選んで話したほうがいい。具体的な場合によっては、話し方が違う。

外の人の中で、妻を呼びたいとき、「bà xā, bà nó, má tụi nhỏ, má sắp nhỏ, má bày trẻ...(子供のお母さん)」と言う。夫なら、「ông xā, ông nó, ba tụi nhỏ, ba sắp nhỏ...(子供のお父さん)」

会話では、ほかの人にうちの人を褒められるとき、話者が謙譲語で答え返したらいい。たとえば、妻を「奥さんは料理が上手ですね。」褒めるとき、「はい、とても上手ですよ。」と答えずに、「いいえ、もっと練習しないと...」と謙虚的に答えたらいい。

#### ② 社会の範囲：

ベトナム人の道理は待遇表現で、謙譲な態度、話し方である。言葉レベル、尊敬言葉、称呼言葉で表せることである。人間関係で、謙譲語とは大切な役割を果たすことである。それを通して、聞き手が話者にどんな人か、と判断する。謙譲的な表現が話者の待遇文化を表すことである。たとえば、会議、セミナーで意見を発表するとき、大きい自慢な表す言葉を使わないほうがいい。その代わりに、「～と思います。～について発表させていただきます...」と言う。それは謙譲語である。

### 結論：

どの言語でも特色な表現、別に特徴があると言われている。英語や日本語など、時間によって、動詞、名詞を変える言語もあれば、ベトナム語など、動詞や名

詞を変えずに、言葉を付ける言語もある。ほかには、言語を通して、国家の文化を分かるようになると思う。

言語の特徴で、敬語とは、謙譲語と尊敬語が大切な役割を果たすと思う。だから、その話し方の基本特徴を研究するのが必要だと思う。

ベトナム語と日本語の謙譲語—尊敬語の基本特徴を研究してから、著者が比較して、話し方ずつの共通と異別をさがすためなのである。

# 第二章

日本語とベトナム語の尊敬語

- 謙譲語の共通点と相違点



ベトナムと日本は中華の文化に影響される国である。それは「礼」という字を尊重する文化である。ここで、「礼」とは、礼儀、礼節、礼式など形式だと分かる。その要素で、話し手の話し方、行動などが相手側に標準丁寧な態度を表す。社交場面によって、話し手が違う呼称形式を使って話す。それは友達、目下の人にくだけの話し方や、上司や目上の人や知らない人などに敬語の話し方になるのである。その中で、特別なのは、尊敬語と謙譲語の話し方である。尊敬語とは、相手側のことを高めるし、謙譲語とは、話し手のことを低めるのである。話し手は自分の言動を謙譲するし、相手側に関しては、尊敬するということである。日本語とベトナム語の敬語は、二つの国の人間関係を重視する伝統文化を表せる。この話し方は言語によって、形式とや意味などで共通点と相違点だと見える。日本語を勉強するときのベトナム人に対して、敬語の共通点と相違点を気が付くのは日本語が上手になるように大切な要素である。したがって、学者は共通点を通して、適切に敬語を使うし、相違点を比較して、間違いないように敬語を使う。

## 2.1 日本語とベトナム語の尊敬語 - 謙譲語の共通点

### 2.1.1 尊敬語の共通点

#### 2.1.1.1 相手

##### ① 「上下関係」

地位：上司と部下、先生と学生

年齢：目上の人と目下の人、先輩と後輩

話し手と相手の尊敬表現は人間関係と待遇表現で基本的な要素になる。尊敬表現を表すために、敬語を使って話すが必要になる。その中で、尊敬語は「上」の人と話すのに使う話し方である。

例：これは先生と学生の会話である。年齢や地位などが違う。

（クラスメート大会がある。今度帰国する学生がいるので、来週の日曜日にさ  
ようならパーティーを開くことになった。ある学生が先生を誘う）

学生：「あのう、先生、ちょっとよろしいでしょうか。」

先生：「あ、どうぞ。」

学生：「実は来週の日曜日、うちでパーティーをしようと思っているんで  
す。」

先生：「いいですね。」

学生：「で、先生、よろしかったら、おいでいただけないかと思ひまして.....  
もうすぐ国へ帰る人もいますし.....。」

先生：「日曜日。ええ、大丈夫ですよ。」

学生：「ああ、よかったです。みんな喜ぶと思います。で、先生には六時ごろ  
においでいただきたいんですが....。」

先生：「わかりました、なにかお酒かおつまみでも持っていこうかな。」

学生：「いえいえ、お気遣いなく。それでは楽しみにしております。」

以上のような会話では、設立される関係は先生と学生の関係である。したがっ  
て、先生は学生より高い地位があるから、話すとき、学生は必ず尊敬語を使う。  
たとえば、「おいでになる」と「よろしい」は「来る」と「いい」の敬語であ  
る。ベトナム語では「あのう、先生、ちょっとよろしいでしょうか。」とは  
“**Thưa thầy, cho em làm phiền thầy một chút được không ạ**”という意味で、  
「**Thưa**」や「**ạ**」は敬語である。

## ② 「内外関係」

日本とベトナムは儒教文化の影響で集団意識が大変強く、従来から個人は集団  
の中の一人であり、個人の運命は集団の盛衰と緊密につながっていると考えて

いる。集団に属するに日本人の人々は仲間意識によって、集団の内部を「内」、外部を「外」と意識している。その内部の人は内とし、内の人は身内で、お互いに熟知し、睦まじい、一心同体である。「外」の人なら、疎遠で、対立、敬遠する対象となる。集団とは単なる人の群れではなく、なんらかの意味で相互依存の事実が認められるような個人の集合である。集団意識と言うものが発生して初めて集団が形成される。集団意識は個人が集団に対して、認識、思考の心の働きで、つまるところ、われわれの知識、感情、意志のあらゆる動きを含み、それらの根底的にあるものである。

ベトナム社会で「集団」は「村」や「家族」（家族は家庭より大きいな構成単位である）と言われている。「村」の中で、共同性は全員をつながる。だから、尊敬語で共通点になる。したがって、「村」や「家族」や「外」の人に会うとき、尊敬語と丁寧語を使う。たとえば、お客さんが尋ねると、「お茶、どうぞ召し上がってください。」（Xin mời anh dùng trà）と飲み物を勧める。一方、軽蔑気持ちを表す言い方は「飲んで」（Uống đi）というのである。この言い方は客に気持ちが悪いと感じさせている。

ところで、家族の呼称では、日本では「躰」という言葉で呼ばれていて、ベトナムと同じように呼称を通して、家族が文化があるかどうか評価されることがある。たとえば、「お父様」「お母様」「お父さん」「とうちゃん」などの呼称である。

### ③ 「親疎関係」

「親」とは、親しい人間関係を表す言葉である。たとえば、家族の人や親友などである。「疎」とは、親しくない人間関係を表す言葉である。たとえば、初めて会う人や知らない人などである。だから、「疎」関係の人と話すとき、日本人とベトナム人は尊敬語、丁寧語を選んで話す。たとえば、お客さんの会社を聞くと、「すみませんが、貴社はどちらにございますか。」（Xin lỗi cho tôi

hỏi, quý công ty ở đâu thế ạ?) という敬語を使うのがいいですが、「会社はどこ」(Công ty ở đâu thế?) という尊敬ではない、丁寧ではない質問で聞けば、お客さんは気持ちが悪いと感じさせる。

#### 2.1.1.2 場面

場面によって敬語表現形式が違う。したがって、会議や相談会など場面なら、尊敬語と丁寧語を使う。

例：山田さんははじめて田中課長の家を訪ねる場面。

山田：「ごめんください」

課長夫人：「あ、山田さんですね。はじめまして。田中の家内です。」

山田：「はじめまして。本日はお招きくださって、ありがとうございます。」「

課長夫人：「主人がいつもお世話になっております。さあ、どうぞ、お上がりください。」

.....

課長夫人：「どうぞおかけください。」

山田：「ありがとうございます。あの、これ、つまらないものですが、どうぞ」

課長夫人：「ご丁寧にも。じゃあ、いただきます。」

.....

課長夫人：「今日はたくさん料理を作りましたから、どうぞ遠慮なさらないで、召し上がってください。」

山田：「遠慮なくいただきます。奥さんがお作りになったんですか。」

以上の会話の場面は課長の家ではじめて会うのである。この場面では、課長と課長夫人と社員という関係がみつがある。だから、社員（山田さん）はいつも敬語を使う。その隣に、課長の奥さんは山田さんと敬語を使って話す。これは山田さんとはじめて会うし、それに山田さんが「外」の人だから、敬語を使う。たとえば、お作りになる、どうぞおかけください、おあがりくださいなど。

### 2.1.1.3 話し手の表現態度

敬語は話し方である。だから、話し手が敬語を言葉で言うと、意味をする。相手を尊敬する気持ちを持っても、言葉で言わなければ、敬語が意味をしない。一方、話し手が敬語をなめらか話しても、気持ちが相手を尊敬しなければ、敬語が意味をしない。だから、話し手の表現態度が大切な要素である。

例：人間のようなロボットが売り場に立って話す：

「いらっしゃいませ。書籍売り場でございます。」。あるいは、エレベーターの使い方を案内する女の人はいつも相手と敬語を話しても、それは尊敬態度を表さないとされている。彼女の敬語はロボットの敬語と同じだけである。悪いけど、相手は軽蔑されると感じるかもしれない。尊敬態度と感情を表さないから。だから、敬語は難しい話し方だと言われている。話し手が敬語をうまく話すだけではなく、気持ちや感情や態度を表すのが必要である。

## 2.1.2 謙譲語の共通点

### 2.1.2.1 相手

#### ① 「上下関係」

地位：上司と部下、先生と学生

年齢：目上の人と目下の人、先輩と後輩

「上下関係」で、話し手は自分がどの地位かと意識するのが必要である。したがって、相手のことを尊敬するし、自分のことを謙譲する。尊敬語と謙譲語になる。

例 1：課長：「私はこれから通産省へ行って来るから、社長がおみえになったら、そう申し上げてくれないか。」

秘書：「かしこまりました。そのように申し上げます。」

⇒ 社長の行動を言うと、「おみえになる」尊敬語を使って、自分の行動を言うとき、「申し上げる」謙譲語を使う。

例 2：先輩：「ゆうべ、その地方で大きいな事故があったのを知ってる。」

後輩：「はい、存じております。最近は事故が多いですね。」

先輩は後輩の上の人だから、話すときには、後輩は先輩と尊敬語を使って、「存じております」謙譲語を使うなら、先輩に間接的な尊敬表現を表す。

## ② 「内外関係」

家族の人、つまり「内」の人を言うと、日本人とベトナム人は謙譲語を使って、謙遜態度を表す。たとえば、夫婦呼称で、（話し手の）妻や家内 (bà xã tôi, nhà tôi)、夫(chồng tôi, nhà tôi) と言うし、（相手の）ご主人 (chồng chị) や奥さん (vợ anh)など。あるいは、「お宅の奥さんは料理がお上手ですね」といわれても、ご主人は、「そうなんですよ。とても上手で、プロの料理のようです」とは言わない。「お子さんはよく勉強ができますね」と言われても、お母さんは、「ありがとうございます。私が何も言わなくても内で学校の勉強をよくするし、本当に良い子供です」とは言わない。普通は謙遜して、「いいえ、まだまだ下手です」とか「もう少し勉強してくれるといいですが…」とか否定的なことを言う。それは、日本とベトナムには「謙譲の美德」というものがある。

### ③ 「親疎関係」

話し手と相手は親しくない関係があるなら、自分のことを言うと、謙譲語を必ず使って話す。

例：A：「お宅の皆様はお変わりなくお過ごしでいらっしゃいますか」

B：「おかげさまで、みんな元気に暮らしております」

AさんはBさんを聞くとき、「お過ごしでいらっしゃいます」という尊敬語を使う。答えるときには、Bさんが「暮らしております」という尊敬語を使う。

#### 2.1.2.2 場面

コミュニケーションで、自分に関することを言うとき、話し手が尊敬語呼称を選んで話す。それを通して、相手を間接に尊敬を表すことがある。

たとえば、職業を言うときに以下のように話す：

- 私は小さい会社の社長です。（自分の職務を話すとき）
- 私はそのことをできるかどうか、分かりません。（自分の能力を話すとき）

以上のような呼称は謙遜性格から発生されると言われている。しかし、西洋人に対して、それは、間違いやすい表現である。普通は、西洋人が個人主義を大切にし、もちろん「私は大きな会社を持ちます」とか「私は自分の家族を誇る」などのような話し方で表す。ベトナム人は同じ中国文化でも中国人や朝鮮半島の人に比べ、日常の振る舞いや考え方などでより日本人に近いところが多い。たとえば、お客さんに飲み物や食べ物を勧めるときに、どんなにおいしい物を進めるときでも、「何もございませんが、どうぞ」と言ったり、いくら立派なお土産を上げるときでも、「つまらない物ですけど、どうぞ」と言ってあげたりする。本当においしい物をあげるのだったら、「これはおいしいですから、どうぞ召し上がってください」、高いお土産をあげるのだったら、「これはとてもいい物です。どうぞ」と言ってあげればいい、と外国人が思うかもし

れない。しかし、このような言い方は日本とベトナムの文化を基にした典型的な日本とベトナムの言い方である。あるいは、人に贈物をしたり、食事に招いたりしたときなど、「大した物ではありませんが、気持ちですから」と、日本人に似たようなことを言う。この点、「贈物は小さいが、心は大きい」(Của ít lòng nhiều)、「贈物より贈り方」(Của cho không bằng cách cho)という諺があるくらいである。こうした謙遜の気持ちは、他の民族には余りないのではないか。日本語とベトナム語の謙譲語とは、西洋人の話し方に比べて、違う。その違いこそ、「謙譲語の美德」になる。

### 2.1.2.3 表現態度

話し手の謙譲表現は心から態度で表すときだけこそ、意味をする。だから、どんなに謙譲語をうまく使っても、謙遜態度を表さなければ、コミュニケーションで効果を果たさない。

例：お客さんは会社を訪ねるが大変大きなトランクを持つから、社員に持ち願います。

お客さん：「ちょっとすみません、トランクを持って頂けないでしょうか」

社員：「はい、いいですよ。お持ちさせていただきます」

社員は「お持ちさせていただきます」という謙譲語を言っても、楽しくない態度を表す。お客さんはその態度を見て、気に入らないと感じる。その社員の態度からお客さんと会社の経営関係が影響されるかもしれない。だから、謙譲語の話し方は謙譲態度と及び表さなければならない。

## 2.2 日本語とベトナム語の尊敬語 - 謙譲語の相違点

以下のように基本相違点である。

- ❖ 社会的距離（地位，力関係，年齢）
- ❖ 自分と相手との親疎関係



❖ 場面や話題の改まりの度合い

❖ 相手への負担度

## 2.2.1 尊敬語の相違点

### 2.2.1.1 相手

#### ① 「内」「外」の 関係

日本家族：日本人の生活の中で、多くの独特な言語現象はいずれも日本人の独特な心理を表している。柳田国男によると日本人には特殊な「内」と「外」の観念が発達している。例えば、ある集団に所属する人々は、集団の内部を内、外部を外として認識する。内部の人々は自分のルールに従い、外部の人々と違う意識を持って行動している。外部の人々は世間のルールを守っている。原始儒教の「親疎の分」の脈絡を引いて、現代の中国も生活において、内の人と外の人に対して、親疎の別がある。しかし、日本語の中に「内」と「外」に関する言葉が非常に豊富である。これは日本社会の「内」「外」意識の普遍性を表しているだろうと思う。

家庭では、他人に自分の家族を話したいとき、「お父さん」「お母さん」という表現は使わない。その代わりに、「父」や「母」という表現を使う。相手に関係のある年下の人としても「お子さん」「お嬢さん」という尊称を使う。相手の両親を尊敬するなら、「お母さん・お母様」「お父さん・お父様」という尊敬呼称を使う。だから、相手を尊敬する言い方は家族の外の人たちに対して使われる。（「お父さん・お母さん」という言い方は普通、家族の中で使われる）。しかし、日本人の家族で、みんなはくだけの言い方を使う。それは家族や友達などという相手と使われる。

例：子供：「ねえ、お母さん、お父さんは何時ごろ帰るの」

母：「そうね、今晚は10時ごろ帰ると思うわ」

⇒ 子供は母に聞くと、き、「帰る」というくだけの動詞を使う。尊敬動詞は

「お帰りになります」である。ところで、戦争の前に、家族で子供は祖父母や両親に尊敬語を使ったが今はくだける言い方を使う。古来から、日本人ははっきりした「内と外を区別する」意識を持っており、自分を中心として周囲に輪を作って、「内」と「外」を区別する。「内」と「外」意識は日本人の思考や親類や言語表現および行動パターンを定めたのであろう。敬語は話し手が、相手に対する敬意を表している。だから、相手への認識により、「内」と「外」の枠は限られている。敬語から見ると日本人の「内」と「外」意識は明らかになる。日本人が「内」と「外」という言葉をよく使うのは、日本人が本来持つ「集団意識」および「仲間意識」の強さと「自分」の「存在」を自分自身で確認するためのであろう。したがって、「内」と「外」の呼称が違う。周知のように、日本語の中で、「内」と「外」意識を最も表現できるのは敬語だと言える。相手との親疎関係により、言語表現が異なっている。例えば、家族の皆さんと他人、集団内部の人と外部の人との話し方がそれぞれ違う。

	私の家族 (内)			相手の家族 (外)	
父		A		相手の家族	お父様
母					お母様
主人	<div>敬語</div>	<div>↑</div>	<div></div>		ご主人
家内					奥さん
子供					お子さん
息子		わたし	<div></div>	相手の家族	息子さん
娘			<div>敬語</div>		娘さん

図 2.2.1.1.1 : 話し手の家族と相手の家族の呼称を表す図表

例：A：「ご両親は**お**元気でいらっしゃいますか。」

B：「はい、おかげさまで、父は元気にしておりますが、母は最近、リューマチギミで、あちこち痛い**と申しております。**」

⇒ Bさんの両親を聞くとき、Aさんは「ご両親」「お元気」という尊敬語を使うが、答えるときに、Bさんが「父」「母」「**申しております**」という謙譲語を使う。

### ベトナム家族：

伝統ベトナム家庭は家で一緒に生活し、血縁関係がある多世代が典型的である。年齢、性別によって、家族の構成員は一定の地位がある。強固な家庭関係を築くため、いろいろな要素が必要である。その中で、家庭の呼称関係は大切なものである。呼称形式を<sup>とお</sup>通して、文化があるかどうか、家族を評価する。

「家族」はベトナム人の考え方で「家庭」より大きな単位である。したがって、血縁関係は縦関係である。それは「祖父母」や「両親」や「子供」や「孫」などの順序関係である。だから、家族の構成員の話し方は昔からいつも大切にしている。したがって、子供や孫という「目下の人」は祖父母や両親という「目上の人」と話すとき、必ず尊敬語を使う。たとえば、学校へ行く前に、「お父さん、お母さん、私は学校へ行きます」とか挨拶するのが必要である。目上の人を尊敬する言い方は主語と尾語の十分な文を使って話す。日本語でほとんど主語を切って話す呼び方がちょっと違う。「学校へ行きます。」という主語のない文が失礼で、相手を尊重しないことを意味する。伝統的なベトナム家族で、北部、中部、南部にかかわらず、親戚称呼関係はひとつの特殊な要素である。それは、祖父母—両親、祖父母—孫、両親—子供、兄弟などという関係である。そこで、相応する称呼形式を造って、みんなの義務と責任で実現される。それは家族の法律と呼ばれる。

ところで、ベトナム語の動詞は形式が変わらない。だから、ベトナム語で尊敬語と謙譲語の話し方を使うとき、日本語のように、尊敬語と謙譲語の動詞を変えて、使う形式がない。その特徴はほかの文法に影響する。相手に対して、話し手の態度を表すとき、話し手、聞き手、第三者の人称代名詞を変えて、使う。たとえば、目上の人に話すとき、「ông—おじいさん、 bà—おばあさん、 cô—おばさん、 chú / bác—おじさん…」などのように話し手の人称代名詞を、そして「cháu, em, con…」(私)などのように聞き手の人称代名詞を、「ông A, bà B thì…」などのように第三者の人称代名詞を使う尊敬語の言葉である。相手と話すとき、ほとんど「ông—おじいさん, bà—おばあさん, cô—おばさん, chú / bác—おじさん…」家族の血統関係がある人たちを表す人称代名詞を使う。(日本人は家族の中での構成員を呼んで、使うだけである。家族の外の人たちに対しては使わない)。

#### 日本会社：

日本社会では「内」と「外」意識が普遍的に存在している。敬語の使いはこの意識をよく表している。一番典型的な表現だと言われている。現代、日本人の敬語観では近い関係の人に敬語を使わないが、親しくない人や見知らぬ人に敬語を使うのがポイントである。相手との人間関係によって、言語表現が違ってくる。話しているとき、もし相手が「外」の人で、自分の家族のことや自分の友達や自分の同僚、自分の目上すら、敬語の使用は許されない。例えば、社内では、「社長さん」と呼ぶのはごく普通である。しかし、お客さんが「社長さんはいらっしゃいますか」と聞いたら、「社長さんはいらっしゃいません」と言う答えはあやまりである。自分の会社を「内」とし、お客さんは勿論「外」とする。この場合はよく「社長はただいま席をはずしております」という謙譲語を使う。

例1：A社の社員の田中さんはB社の課長の佐藤と話す

田中：「あした、うちの藤田課長が B 社に 3 時ごろいらっしゃりたいとおっしゃっています」。

佐藤：「そ、そうですか」。

⇒ 田中さんが使った敬語は間違う話し方である。日本人は会社の「内」と「外」の関係を区別する習慣があるから。それは課長のことを相手と話すとき、「藤田」と呼ぶが、会社の中で、「藤田課長」と呼ぶ。したがって、良い言い方は「あした、うちの藤田が B 社に 3 時ごろ参りたいと申し上げます」である。その中で、「参る」と「申し上げます」と「藤田」とは課長の言動を謙譲する言い方である。

例 2：イギリスの企業、ユーケーリス買収に関連して、相手側代理人ジェームス氏からの正式な条件提示があった。それに対する回答と、大洋銀行としての基本的態度を示す文章の作成が必要になり、山田は部長から、残業して文案をまとめることを頼まれる。

部長：「今まで、役員会で話し合って、このメモにあるような回答を出すことにしたんだけど、これを文章まとめてくれたまえ」

山田：「じゃあ、さっそく始めますが、文案ができたら、ごらんになっていただけますか」

⇒ 日本の会社で社員は上司と話すとき、尊敬語を使う。それはベトナムの会社員の言い方と同じである。

	私の会社 (ウチ)		社外 (ソト)
	A		
<del>敬語</del>	↑	会話	
	わたし	→	相手
		敬語	

図 2.2.1.1.2 : 日本の会社でのコミュニケーション基本原則

会話で、会社の人たちを相手と話すとき、敬語を使わないが、相手や相手のことを話すとき、敬語を必ず使う。

ベトナム会社：

上司、目上の人、お年よりの目下の人に話す場合なら、社員が尊敬語を使う。たとえば、「課長、ちょっと、お願いがあるんですが。。。」、「社長、私を呼んで、何でしょうか。」って言い方である。相手にうちの上司について話すとき、社員が尊敬語を使って話す。その場合なら、日本人の社員が謙譲語を使って話す。

会社の社交文化とは、「営業美德」を表す。したがって、相手会社、上司に話すときは、社員が尊敬語を使って、話す。そして、相手会社に上司のことを話す場合は、ベトナム会社の社員が尊敬語を使う。たとえば、「**Phuong** 社長はもうすぐいらっしゃいます。」、「**Quang** 課長は今日出張するとおっしゃいました。」という話し方である。しかし、日本の会社では、こののような話し方を使わない。具体的に言うと、日本人の社員は相手会社に上司のことを話すと

き、尊敬語を使わずに、謙譲語を選んで、話す。たとえば、お客様の前で、「わたくしどもの山田がまいります。」と言い、会社内では、「山田課長がいらっしゃいます。」という話し方である。

ベトナムの会社で、年齢や地位などによって呼称する。したがって、話し手の部下でも年齢が多いから、敬語を使う。たとえば、労働者と話すとき、「Maiさん、私の部屋に水のびんをお願いします」と主語と尾後の十分ある言い方を使う。年齢が多い人を尊敬する気持ちと態度をあらわすためである。尊敬でない言い方は「水のびん、ください」である。でも、それはベトナム人の礼儀だし、丁寧な言い方ではない。

#### 2.2.1.2 表現形式

##### 日本語の尊敬語

###### ① 接頭語

例：お名前、ご意見、貴社、御社、ご家族、お嬢さん

###### ② 接尾語

例：田中さん、鈴木さま

###### ③ 尊敬名詞

例：佐藤先生、後藤課長

###### ④ 尊敬動詞

例：

- 先生もこの計画をなさいます。（する → なさいます）
- 課長は来月中旬ニューヨークへおいでになる予定です。（おいでになる → いく）

- 昨夜、よくおやすみになりましたか。（寝る → おやすみになる）など

## ベトナムの尊敬語

ベトナム人の呼称形式は村、親戚、近所などの文化に影響される。その影響から、家族関係を表す称呼形式は人称代名詞の変わります。たとえば、若い人は中年の人を「bác」、「chú」（おじさん）と呼ぶのが普通である。そう言うと、礼儀正しい、丁寧な人だと評価される。伝統的なベトナム家族で、北部、中部、南部にかかわらず、親戚呼称関係はひとつの特殊な要素である。それは、祖父母—両親、祖父母—孫、両親—子供、兄弟などという関係である。そこで、相応する称呼形式を造って、みんなの義務と責任で実現される。それは家族の法律と呼ばれる。

ところで、日本語の尊敬語は接頭語や尾語を付けるし、動詞を変える言い方であるが、ベトナム語の尊敬語はそうではない。ベトナム語の動詞を変えることができないから。だから、尊敬を表すため、話し手は丁寧で尊重の気持ちを表す言葉や話し方の文法形式を選ぶのが必要である。それは人称名詞や主語と尾語がある話し方などである。ほかに、「thưa, dạ thưa...」や「ạ, vâng ạ...」のように敬意を表す言葉を使う。

「Thưa」「ạ」は目上の人や、上司などと話すとき使う言葉である。位置は文の末や二人称名詞の直前などにある。

### 2.2.2 謙譲語の相違点

#### 2.2.2.1 相手

「内」「外」の関係

日本：日本社会では「内」と「外」意識が非常に強いとよく言われている。周知のように、日本語の中で、「内」と「外」意識を最も表現できるのは敬語だ



と言える。相手との親疎関係により、言語表現が異なっている。例えば、家族の皆さんと他人、集団内部の人と外部の人との話し方がそれぞれ違う。

集団に属するに日本人の人々は仲間意識によって、集団の内部を「内」、外部を「外」と意識している。その内部の人は内とし、内の人は身内で、お互いに熟知し、睦まじい、一心同体である。「外」の人なら、疎遠で、対立、敬遠する対象となる。

例 1 :

A: 「おばあ様はお孫様が可愛くてしかたがないのでしょうね」

B: 「ええ、祖母も祖父も長い間、孫ができるのを楽しみにしておりましたから」

⇒ 相手の家族の人：「おば様、お孫様」と尊敬語

自分の家族の人：「祖父、祖母、楽しみにしております」と謙譲語

例 2 : 田中さんは社員、山下さんはお客さん

田中：「山下さん、今晚 あたり飲みにはいらっしやいませんか」

山下：「いいですね。でも、今晚は家内の両親が十年ぶりに国に来るから出て来るので、早く帰らなければならないんです」

⇒ 相手の行動：「いらっしやる」と尊敬語

自分の家族：「家内、出て来る」と謙譲語

ベトナム：コミュニケーションでは、丁寧規則を大切にするから、敬語形式を選んで話す習慣がある。だから、ベトナム語の呼称関係が豊かである。それは話し手、聞き手、第三者の人称代名詞体系である。しかし、日本語とベトナム語で、その体系は違うところがある。ベトナム語なら、相手を社会での年齢、

地位によって呼ぶ。相手が話し手と同歳なら、「anh」（男）「chị」（女）。話し手の目上の人なら、「chú / cô / bác / ông / bà」（あなたという意味）と呼んで、「em / cháu」（私という意味）と自称する。

#### 2.2.2.2 表現形式

##### ① 日本語の謙譲語

動詞の連用形、名詞にオ・ゴを付け、規則的に変える場合

「お・ご ～ する・いたす」

例：出発時間が一時間繰り下げられましたので、皆様にその旨ごれんらくいたしました。

「お・ご ～ 申し上げる」

例：営業の田村でございます。よろしくお願い申し上げます。

「お・ご ～ いただく」

例：ちょっとお待ちいただければ、すぐお直しいたします。

##### ② ベトナムの謙譲語

先生と学生の適切な呼称は普通「*Thầy – em, cô – em, thầy – tên riêng, cô – tên riêng, thầy – các em, cô – các em*」であるが、今、先生は学生と「*Tôi – em, tôi – các em, tôi – các anh / các chị, tôi – các bạn, tôi – tên riêng*」謙譲的な呼称する。したがって、先生は学生を尊重するということである。

ところで、日本語のようにベトナム語の謙譲語は人称代名詞でよく表せない。たとえば、お母さんはうちの子供を言うとき：

A: 「お子さんも皆さん大きくなられたでしょうね」

B: 「ええ、一番上の息子は今年大学を卒業して、会社に入りました。真ん中の

息子は大学一年、娘は高校三年、下の息子は高校一年になりました」

⇒ 日本語の謙譲人称代名詞：息子、娘。（尊敬語は息子さん・息子様、娘さん・娘様）

ベトナム語：「*con trai tôi, con gái tôi*」という意味だけである。

だから、ベトナム語の人称代名詞を基にすれば、謙譲語を気が付かないかもしれない。それなら、使われる言葉や文構成や言葉秩序などを注意するのが必要である。

例：お客さんが訪ねたら、戸棚に置いている飾り物を見て、大家さんを聞く

A: 「それはすてきですね。どこで買いましたか」

B: 「あ、それはみんな家内が作っておりました」

B: 「そうですか。奥さんはお上手ですね。芸術家のようなですね」

A: 「いえいえ、家内がまだ下手です。もっと頑張っております」

⇒ 謙譲語：「家内が作っておりました」「いえいえ、家内がまだ下手です。もっと頑張っております」。謙譲語を表さなければ、「ありがとうございます。本当に上手です」と答える。しかし、そのような答えは良くない言い方である。

### 結論：

要するに、ベトナム語と日本語の尊敬語—謙譲語の共通点と相違点は非常に興味深いものがあつた。それは国の文化、社交習慣などに影響されるからであろう。だから、日本語を学ぶとき、ベトナム人はその共通点と相違点に注意し、適切な態度、呼び方を学ばなければならない。以上のような問題を分析して、著者はその共通点と相違点についてラクホン大学、東洋学部、日本学科、160人の学生の意見を聞く考察した。その考察は第三章に表せる。それから、尊敬語と謙譲語の教育法を提案する。

# 第三章

日本語の尊敬語—謙讓語の

教育法提案

日本語教育で敬語は学者に初級の後半に教えられる。敬語は日本人でも難しい話し方である。だから、ベトナムの学生に日本語、敬語を教えるとき、教師は適切で、効果的に教育法が必要である。たとえば、尊敬動詞は「お～になる」と「～れる・られる」の表現形式があるが、どれが特殊な話し方であるのか、説明するのが必要である。それは学生に敬語を教えるときにひとつの難しい要素である。ほかには、使っている教科書と学校のシラバルによって、一概にどれがいいかと言えないはずである。だから、大切なのは、敬語教案を書くとき、先生は分かりやすく講義の内容を設計するのが必要である。

教室での敬語は社会で使っているのが違う。具体的に場面によって、敬語は形式が変わる。それはレストラン、デパート、会社、複雑な人間関係などの場面である。日本語を学ぶ人に対して、文化は社会の人間関係や敬語使用法などに影響を与えてるひとつの要素である。そこで、日本語を学ぶ人に対象や実際の場面に適切な敬語使用法と日本の特殊な「敬語文化」を伝えるのは教師に気になって、注意される。

以下はアンケートの敬語に関する 10 質問を分析するものである。考察対象はラクホン大学、東洋学部、日本学科、160 人の四年生である。それから、著者は評価と提出を出すものである。

### 3.1 教程：（教科書、テキスト）

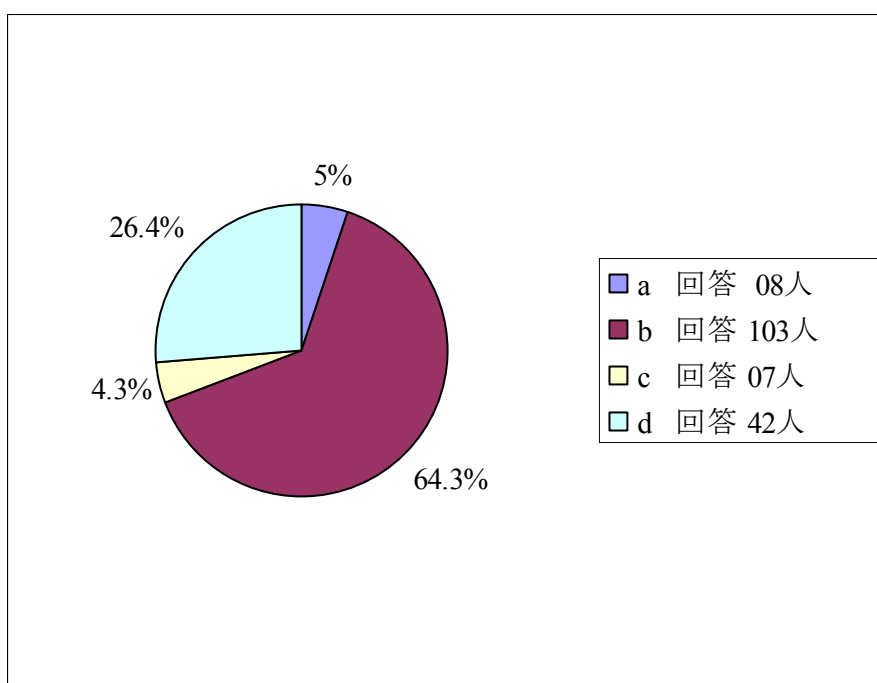
一番：現在、敬語の教程はどう思う。

- a) 教程の内容は豊かで、実際に使う場面、練習の宿題を出す。
- b) 教程の内容は制限で、あいまいで、分かりにくい。
- c) 教程の内容は社交文化を添付し、分かりやすい。
- d) 教程の内容は社交文化を添付しなくて、分かりにくい。

結果：

- a 回答： 08 人      5 %
- b 回答： 103 人      64.3 %
- c 回答： 07 人      4.3 %
- d 回答： 42 人      26.4 %

図 3.1.1：敬語の教程に意見を表す図表



評価と提案：

以上のような回答で、「教程の内容は制限で、あいまいで、分かりにくい」という b 回答が一番多く比例を占める（64.3%）。それは日本語の敬語を教える教程の弱点だと見える。現在、ラクホン大学で教えられる敬語の教程はみんなの日本語の本である。例文、文型、練習、宿題、尊敬語と謙譲語の動詞などを出すのが 49 課と 50 課だけで書かれている。しかし、敬語のような使いにくい社交形式に対しては、典型的例文、文型などを出すのが学者を使用意味

が十分分かるのに困らせる。それに、ベトナム人が学んでいる日本語の教程で、一概に見えて、「です・ます」という丁寧な言い方を使っている。その中で、38 課だけは家族、友達などの対象のための「だ・る」という普通形の言い方を出している。尊敬語と謙譲語は 49 課と 50 課だけで現れる。だから、できれば、著者は教程の表現形式や内容などをもう一度変えて書いてほしいと思う。したがって、ひとつずつの課では、話し手と相手の地位によって適切な会話を出す。それで、社会の人間関係によって、「です・ます」という丁寧な言い方をずっと使わないように、違う言い方があるはずである。

「教程の内容は社交文化を添付しなくて、分かりにくい」という d 回答は二番多く占める。この結果は社交での文化について別冊の役割を出す。文化と言語は影響関係があるから、学者は社交文化がもっと分かれば、「文化ショック」に合わないはずである。だから、社交で正しく、適切な話し方を選んで、話す。

「教程の内容は豊かで、実際に使う場面、練習の宿題を出す」という a 回答は比例を 5% 占める。全体比例を見ると、5% の比例は少なすぎるのである。それは教程内容がまだ現在日本語教育に十分応答しないのを表現する。つまり、95% の意見は敬語の教程内容の弱点を反映する。だから、それは先生の教え方と下区政の学び方を影響する。

「教程の内容は社交文化を添付し、分かりやすい」という c 回答は一番少ない比例を占める (4.3%)。そんなに低い意見比例はもう一度敬語の教程内容を見返すが必要である。したがって、文化は社交で大切な役割を果たすと見える。社交文化を分かれば、話し手は相手による適切な話し方を選んで話す。日本社会で日常話し方は言葉のレベルをはっきり分ける。友達同士なら、普通形の話し方を使うし、「だ・である・る」という動詞と名詞で現れる。目上の人

や上司や初めて会う人などなら「です・ます」という丁寧な言い方で、「尊敬語と謙譲語」という言い方を使う。

要するに、日本語の敬語を分かるように、社会で日常話し方を出すだけではなく、違う場面の話し方を出すのが必要である。たとえば、営業—貿易、学校、会議—相談、国際交流などの場面である。それで、学生は話し方、使用場面、相手などのことを比較されることができ、直接話すときには適切な言葉を選んで話すのに困らない。

他には、教程に手紙を書くときの敬語の使い方を言い表すのほうがいい。ここでは、貿易の手紙の書き方を出す。それから、貿易の手紙にある敬語の言葉を出す。

普通の敬語表現	手紙の敬語表現	意味
ご安心ください	ご休心願います	安心ください
書中にて	書面の上で	手紙の中に
お体を大切に	ご自愛専一に	体に気をつけなさい
すこやか	ご健勝	健康を祈ります
ご意見をうかがいたく	貴意を得たく	意見を聞きたい
おいでいただきたく	ご来駕いただきたく	来てもらいたい
ご配慮のほど	ご高配のほど	よろしくお願いします
お伝えください	ご鶴声ください	伝言をお願いします

## 敬語の言葉

### 指示、福祉、名詞、挨拶の言葉



普通の言葉	敬語の言葉
こっち	こちら
そっち	そちら
あっち	あちら
どっち	どちら
どこ	どちら
今日	本日
あした	みょうにち
次の日	翌日
次の次の日	翌々日
あさって	明後日
きのう	昨日
おととい	一昨日
去年	昨年
ゆうべ	昨夜
けさ	今朝、けさほど
明日の朝	明朝
今日の夜	今夜
今	ただいま
この間	先日
今度	このたび、このほど、今回

後で	のちほど
さっき	さきほど
これから	今後、これより
すごく・とても	大変、非常に
ちょっと・少し	少々
早く	早めに
本当に	まことに
すぐ	さっそく、早急に
とても～ない	とうてい～ない
どう	いかが
いくら	いかほど、おいくら
いい	よろしい、けっこう
冷たい水	お冷や
すみません	申し訳ありません、恐れ入ります
さようなら	失礼します・失礼いたします
ありがとう	ありがとうございます

「内」「外」の関係を表す言葉

内のこと	外のこと
家族	ご家族
父、おやじ	お父さん・お父様
母、おふくろ	お母さん・お母様

おっと、たく	ご主人
妻、家内、女房	奥さん・奥様
祖父	おじいさん・おじいさま
祖母	おばあさん・おばあさま
子供	お子さん
息子	息子さん、ご息子
娘	娘さん、お嬢さん
兄弟	ご兄弟
兄弟	お兄さん・お兄様
妹	お姉さん・お姉様
親類	ご親類
おじ	おじさん・叔父様
おば	おばさん・おば様
いとこ	いとこさん
まご	お孫さん
うちのもの	内の方、こちらの方
この人	この方、こちらの方
みんな	皆様
会社のもの	会社の方
山下	山下さん・山下様
社長の田中	田中社長（さん）

教師	先生
警官	おまわりさん
医者	お医者さん・お医者様
名前	ご芳名
拙宅	お宅
弊社	貴社

### 3.2 教師の教え方：

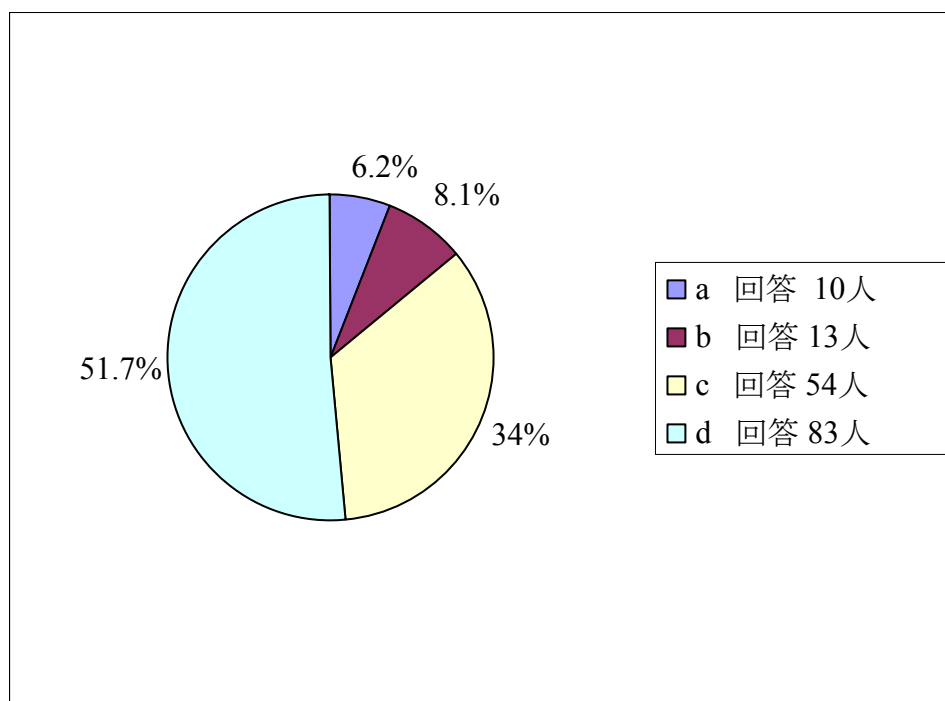
二番：敬語について教師の教え方はどう思う。

- a) 良くて、分かりやすく、活気な雰囲気、先生は場面を出し、学生はやって、練習する。
- b) 先生は学生を中心にしないで、練習場面を出さない。
- c) 授業で、先生は二つの国の社交や呼称文化を教えずに、教科書の内容だけを教える。だから、学生は二つの言語の敬語の共通点と相違点をまだ分らない。

結果：

- a 回答： 10 人            6.2 %
- b 回答： 13 人            8.1%
- c 回答： 54 人            34%
- d 回答： 83 人            51.7%

図 3.2.1 : 先生の教え方意見比例表現図表



#### 評価と提案：

図 3.2.1 に、「授業で、先生は二つの国の社交や呼称文化を教えずに、教科書の内容だけを教える。だから、学生は二つの言語の敬語の共通点と相違点をまだ分らない」という 34%の意見（c 回答）がある。そして、「先生は学生を中心にしないで、練習場面を出さない」という 8.1%の意見（b 回答）がある。一番多かったのが「b 回答と c 回答」という 51.7%の意見の d 回答である。その内に「良くて、分かりやすく、活気な雰囲気、先生は場面を出し、学生はやって、練習する」という 6.2%の意見（a 回答）がある。それを通して、学生は先生に教え方を新しくしてほしいと見える。

だから、著者は以下のような教え方を出させていただく。

一番、教室の雰囲気を作る方法である。それは先生の講義を分かる過程に影響を与えるから。したがって、先生はできるだけいい雰囲気を作るのほうがいい。たとえば、会話の授業で、机といすを片付けて、小さいグループになるとか、

U 字のような形になることがある。周りが学生で、真ん中が先生のところである。それなら、先生は先生ずつに直接接触することができるし、発音や言葉の使い方などを間違ったら、すぐ直してあげる。だから、先生と学生の距離は減り、教室の雰囲気をもっとよくなるようである。で、学生は授業が緊張でつまらないのではなく、相談のようと感じることがある。

二番、授業で、先生は決まっておく規則を出す。たとえば、もし、学生は遅く教室に来れば、先生と敬語の言い方で誤る。あるいは、出かけてもらえると、敬語を言う。学生は自分で敬語を言えると、講義を覚える。

三番、先生は学生に具体的な敬語の場面を作ってあげる。たとえば、レストランや会社やデパートなどという場面である。それから、先生は学生のグループを分けて、練習させる。レストランの会話なら、6 人ぐらいのグループが必要である。サービスの社員や店長や客さんである。それから、場面の雰囲気を注意するのが必要である。そこで、テーブルクロスやかびんやメニューなどを準備しておく。学生は練習するときに、間違ったら、先生は直してあげる。たとえば、サービスの社員と客さんの会話：

サービス：「いらっしゃいませ」

客：「11 時に予約した長谷川ですが....」

サービス：「長谷川様でいらっしゃいますね。お待ちしております。2 名様ですね」

客：「はい」

サービス：「こちらへどうぞ」

.....

サービス：「こちら、メニューでございます。ご注文がお決まりになりました

ら、お伺いいたします」

.....

客：「注文、お願いします」

サービス：「お待たせいたしました」

客：「このすしを2つお願いします」

サービス：「かしこまりました。コーヒーか紅茶をお選びいただけますが....」

客：「じゃあ、コーヒーを2つ。それから、このスペシャルスープありますか」

サービス：「こちらのスープ、恐縮ですが、ただいま準備中ございまして....」

客：「ああ、そうですか。残念」

サービス：「夜のメニューでございますので....申し訳ございません。お酒など、お飲み物はいかがいたしましょうか」

客：「いいえ、結構です」

サービス：「かしこまりました。それでは、ご注文を繰り返させていたか来ます。すしをお2つ、コーヒーをお2つですね。少々お待ちください」

以上のような会話では、「恐縮ですが....」は「すみません」の丁寧語で、

「お決まりになりました」は「決まった」の尊敬語という先生は学生に教えてあげる。

ところで、これから、学生の学び方を提案させていただく。

### 3.3 学生の学び方

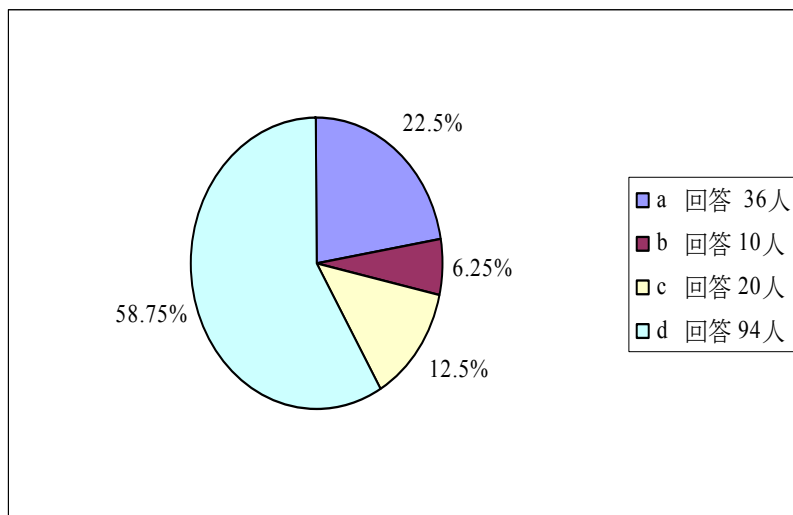
三番：今は学生の敬語の学び方はどう思う。

- a) 消極的に学び、参考書やテキストなどを調べずに教科書だけに寄る。
- b) 積極的に練習し、先生や友達と会話し、日本語のセンターで塾する。
- c) 先生から教えもらうだけで、他の知識を全然補充しない。
- d) a 回答と c 回答

結果：

- a 回答： 36 人 22.5 %
- b 回答： 10 人 6.25%
- c 回答： 20 人 12.5 %
- d 回答： 94 人 58.75%

図 3.3.1：学生の敬語の学び方を表現する図表



評価と提案：

一番多かった意見比例は「消極的に学び、参考書やテキストなどを調べず



に教科書だけに寄る」(a 回答)と「先生から教えもらうだけで、他の知識を全然補充しない」(c 回答)という 58.75%の d 回答である。そして、a 回答が 22.5 %で、c 回答が 12.5 %の比例を含む。その中では、「積極的に練習し、先生や友達と会話し、日本語のセンターで塾する」という 6.25%の意見だけがある。だから、日本人と話すとき、学生は緊張し、困るし、適切な敬語の言葉を選んだらいいか分からない。それでは、学者はいつも積極的に勉強し、先生や先輩などからアドバイスを教えてもらうのほうがいい。

ついでに、著者は以下のような敬語の勉強し方を提案させていただく。

コミュニケーションで、徹底的に、敬語を使うのではないが、社会の個人という地位で、敬語を使うのが必要である。しかし、敬語をうまく使っても、表現態度が良くなければ、効果を果たさない。だから、学生は適切な勉強し方を見つけるのが必要である。

外国人に対して、敬語は難しい話し方であるが日本人でも難しいと言う。でも、学者はいつも敬語が難しいと思ったら、時間がかかっても、ぜんぜん敬語ができない。だから、敬語をうまく使うため、最初は考え方を変えるのほうがいい。そして、敬語が難しいから、話せないという考え方を捨てる。敬語を学ぶのが外国語を学ぶのと同じから、毎日練習しなければ、できない。大切なのは敬語の使い方や意味を学んだら、みんなと話さなければ、毎日きちんと学んだ敬語は意味しない。

敬語を学ぶ学者に対して、はじめの時間がちょっと大変だし、それに誤解されることもあるけど、その誤解を超えて、練習し続ければ敬語ができる。だから、敬語を学ぶ方法は学ぶより慣れるのほうがいい。何回も失敗しても、心配しないで、頑張ろう。

### 3.4 学生の勉強に影響する他の要素

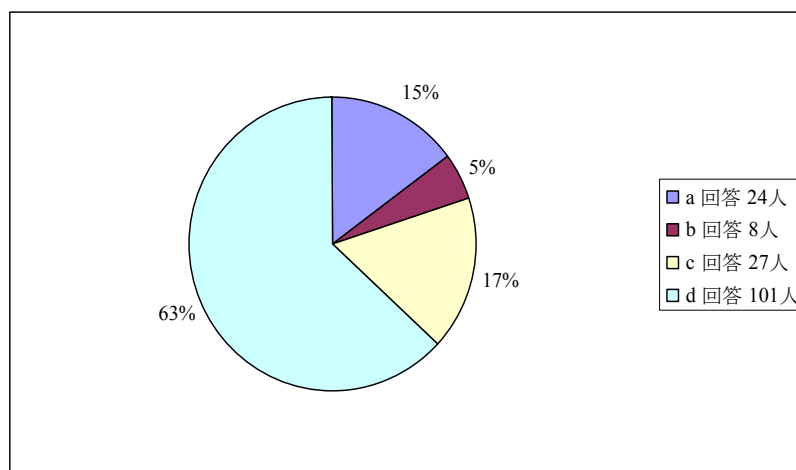
四番：敬語の勉強で、学生を困らせる原因は何。

- a) 教程が少ないし、内容が豊かでないし、それに文化付録がない。
- b) 先生の教え方がつまらない。
- c) 勉強の意識が良くないし、消極的に学ぶ。
- d) a 回答と b 回答と c 回答

結果：

- a 回答： 24 人 15 %
- b 回答： 08 人 5%
- c 回答： 27 人 17 %
- d 回答： 101 人 63%

図 3.4.1：敬語を学ぶときの難しい原因



評価と提案：

敬語を効果的に学ぶため、学者は難しさの原因を注意する必要がある。それから、克服方法や適切な学び方を見つけることができる。回答の中で、

「教程が少ないし、内容が豊かでないし、それに文化付録がない」という 17% の意見 (c 回答) がある。そして、「教程が少ないし、内容が豊かでないし、それに文化付録がない」という 15% の意見 (a 回答) がある。「先生の教え方がつまらない」という 5% の意見 (b 回答) がある。「a 回答と b 回答と c 回答」という 63% の意見 (d 回答) がある。「d 回答」はもう一度「教程と先生の教え方と学生の学び方」という三つの要素こそが学生を敬語の勉強し方で困らせる原因であるということを表す。

先生の教え方は変えるのほうがいい。授業で、軽く、ゆったりな雰囲気を作るのが必要である。それなら、先生は自由に意見や質問を出すことができる。それから、先生は学生に敬語の場面を作ってあげるし、練習させる。

ほかには、教程は日常生活でよく使われる敬語の言い方を説明し案内する。

例：文を終えない言い方：

- 明日はちょっと.....
- 今、忙しくて.....
- これ、昨日買ったですけど、少し傷んでいるんですが.....など

**五番：敬語をなめらか使えない理由は何か。**

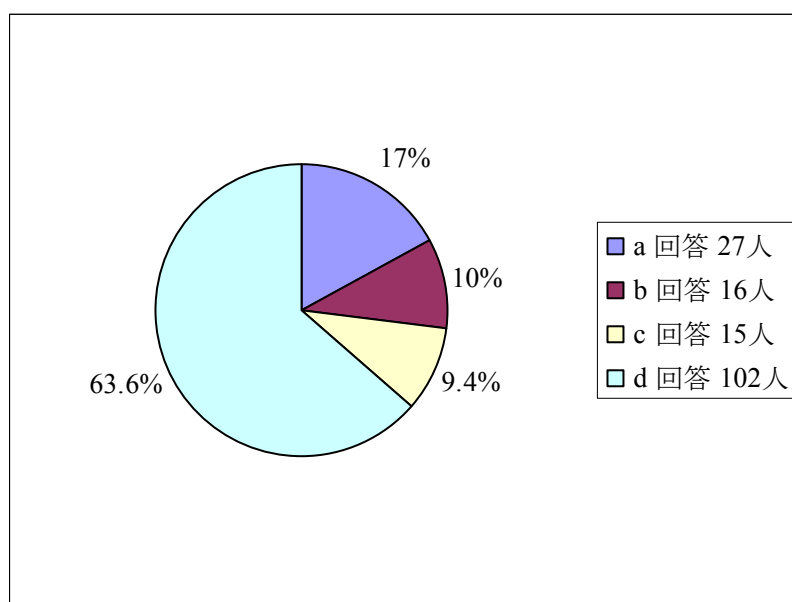
- a) 日本の社交文化や敬語の場面や相手や使い方などがよく分からないから。
- b) コミュニケーションで小心で、自身を持たない。それに、ベトナム人のびくびくする性格であるから。
- c) 聴解能力が良くないから、会話の内容がよく分からないから。
- d) a 回答と b 回答

結果：

a 回答： 27 人      17%

- b 回答： 16 人 10%
- c 回答： 15 人 9.4 %
- d 回答： 102 人 63.6%

図 3.4.2：敬語の使用の難しい原因を表す図表



#### 評価と提案：

図 3.4.2 に表せる結果を見ると、「日本の社交文化や敬語の場面や相手や使い方などがよく分からないから」という 17%の意見（a 回答）がある。そして、「コミュニケーションで小心で、自身を持たない。それに、ベトナム人のびくびくする性格であるから」という 10%の意見（b 回答）がある。一番多かったのが「a 回答と b 回答」という 63.6%の意見（d 回答）がある。意見を出したくても話せないというベトナム人の学者の性格からこそ敬語の勉強に影響するかもしれない。だから、相手を尊敬する気持ちを表したくてもベトナム人の学者は敬語の言い方を選んで話したらいいのか分からないから、敬語を話さないということもある。それから、「聴解能力が良くないから、会話の内容がよく分からないから」という意見（c 回答）がある。それを通して、日本人が言う

ことをよく分かるように、学生はいつも練習して練習するのが必要である。たとえば、日本語のクラブに参加するとか、日本語のセンターで勉強するとかは日本人と話す機会があるから、聴解能力がだんだんよくなる。聴解したら、どの言い方を使ったらいいのか分かるようになる。

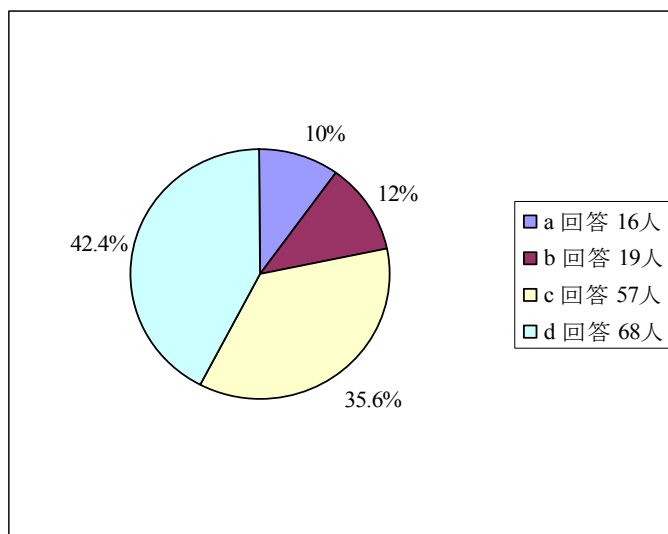
六番：勉強している学校で先生の敬語の学び方を手伝う方法は何か。

- a) 学生に日本人と会って話すチャンスを与えるためによく学校で日-越文化交流大会を行う。
- b) 工業団地の日本の会社で実際働く参加する学生に援助する。
- c) 何もない。
- d) a 回答と b 回答

結果：

a 回答：	16 人	10%
b 回答：	19 人	12%
c 回答：	57 人	35.6 %
d 回答：	68 人	42.4%

図 3.4.3：学校の援助方法について意見を表す図表



## 評価と提案：

図 3.4.3 の資料を見ると、ラクホン大学は学生の勉強によく関心を持っている大学であるだと見える。四年生が終わってから、日本の会社で実際働くことができる。「工業団地の日本の会社で実際働く参加する学生に援助する」という 12%の意見（b 回答）がある。そして、「学生に日本人と会って話すチャンスを与えるためによく学校で日-越文化交流大会を行う」という 10%の意見（a 回答）がある。それから、「a 回答と b 回答」という 42.4%の意見（d 回答）がある。「何もない」という 35.6 %の意見（c 回答）がある。それはひとつの弱点である。敬語を学ぶときは三年生のときであるが、そのときは実際労働時間に当たらない。実際労働時間は四年生になるから。だから、学生は実際に敬語の講義を練習しないから、使い方や場面などがよく覚えてないということである。

### 七番：母語（ベトナム語）は日本語の勉強にどう影響するか。

a) 日本語に翻訳したいときに、ベトナム語の相対的に人称代名詞や敬語の言い方を見つけない。

b) ベトナム語は敬語の動詞や敬語の助詞などがない。

c) ベトナム語には、相手によって、一人称と二人称は変えることがあるが日本語がない。

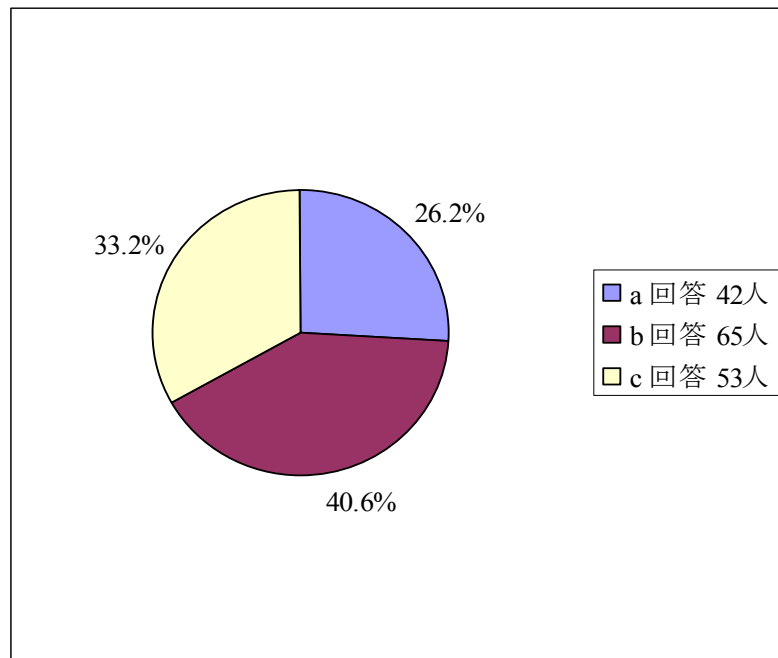
## 結果：

a 回答： 42 人 26.2%

b 回答： 65 人 40.6%

c 回答： 53 人 33.2 %

図 3.4.4 : 外国語に母語の影響



#### 評価と提案：

外国語を勉強するとき外国人に対しては、一番難しさは母語の消極的な影響するのである。それは外国語を話すため母語のように不適切な言葉を使うのだということである。言語の特徴が違うから、母語にはある言い方があるが外国語にはない。ベトナム語と日本語の特徴は違うところがたくさんある。それは字体系や呼称形式などである。ベトナム語は Latin 語であるが、日本語は平仮名とカタカナと漢字がある。第一章に書かれておく。この影響が 3.7 図表に表せる。その中で、「ベトナム語は敬語の動詞や敬語の助詞などが無い」という 40.6%の意見 (b 回答) がある。そして、「ベトナム語には、相手によって、一人称と二人称は変えることがあるが日本語がない」という 33.2 %の意見 (c 回答) がある。日本語にはベトナム語のように親族呼称が普通ない。それは一人称が「わたし」で、「二人称」が相手によって、先生とか、名字に接尾語 (さん・さま) を付けて名前を呼ぶということである。それから、日本語に翻訳したいときに、ベトナム語の相対的に人称代名詞や敬語の言い方を見つけない

い」という 26.2%の意見（a 回答）がある。だから、外国語を勉強するとき、学者は言語の特徴や文化の特殊をよく研究し分かるのが必要である。

八番：社交文化と呼称の習慣は敬語の使用や外国語の勉強にどう影響するか。

a) 積極的に影響する。文化と呼称は共通点があるから。

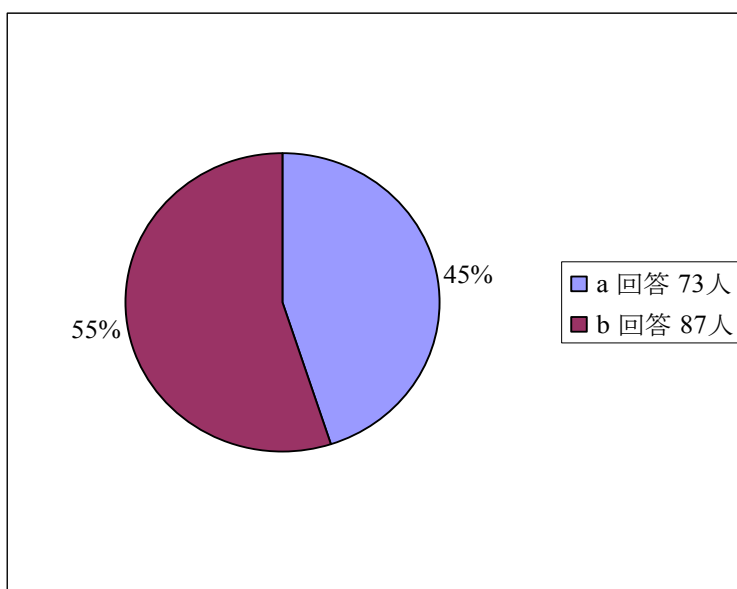
b) 消極的に影響する。文化の相違点があるから、「文化ショック」を与える。呼称の習慣の相違点があるから、人称代名詞や言葉の使い方が分からない。

結果：

a 回答： 73 人 45%

b 回答： 87 人 55%

図 3.4.5：敬語の勉強に社交文化と呼称習慣の影響



評価と提案：

図 3.4.5 に「積極的に影響する。文化と呼称は共通点があるから」という 45%の意見（a 回答）がある。そして、「消極的に影響する。文化の相違点があるから



「文化ショック」を与える。呼称の習慣の相違点があるから、人称代名詞や言葉の使い方が分からない」という 55% の意見（b 回答）がある。比例は（45% と 55%）相当だと見える。距離が大きくないから、学者は積極の点を発揮し、消極の点を制限することを意識する必要がある。そのために、学者は一生懸命練習し、参考書やテキストを読む必要がある。

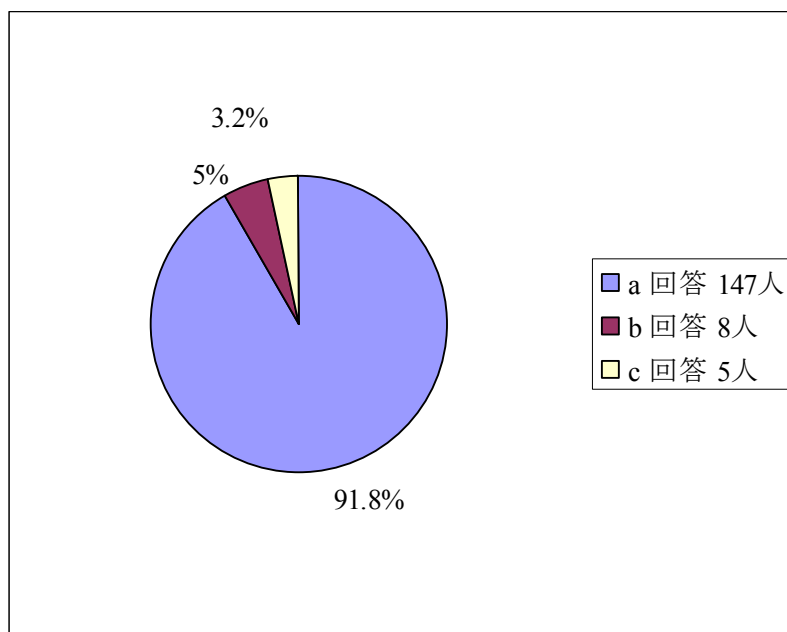
九番：文化と言語の関係をどう思う。

- a) 言語は文化を表すことで、文化は言語を受理する過程に影響する。
- b) 文化と言語のあいだは関係がない。
- c) 文化だけは言語に影響するが、言語は文化に影響しない。

結果：

- a 回答： 147 人 91.8%
- b 回答： 8 人 5%
- c 回答： 5 人 3.2%

図 3.4.6：文化と言語の関係を表す図表



## 評価と提案：

図 3.4.6 に「言語は文化を表すことで、文化は言語を受理する過程に影響する」という 91.8%の意見（a 回答）がある。それは四つの回答で一番多い比例である。それは外国語の勉強で、文化と言語の関係について学生が意識を持っていると見える。しかし、「文化と言語のあいだは関係がない」という 5%の意見（b 回答）がある。そして、「文化だけは言語に影響するが、言語は文化に影響しない」という 3.2 %の意見（c 回答）がある。以上のような考え方は良くないのである。言語や文化だけがあれば、言葉の意味を作らないとか文化の特徴を現せないということもあるから。だから、外国語を勉強するとき、学者はその関係を注意して、適切な使用法がある。そのために、言語を勉強しながら文化を勉強するのが必要である。その上で、母語の文化に比べて、外国語の文化と共通点と相違点を発見してから、学者は適切な勉強し方を選べる。だから、コミュニケーションで、外国人と話すとき、間違えないように、学者は文化と言語の関係をよく分かるの法が必要である。

### 十番：敬語の意味の共通点は敬語の勉強にどう影響するか。

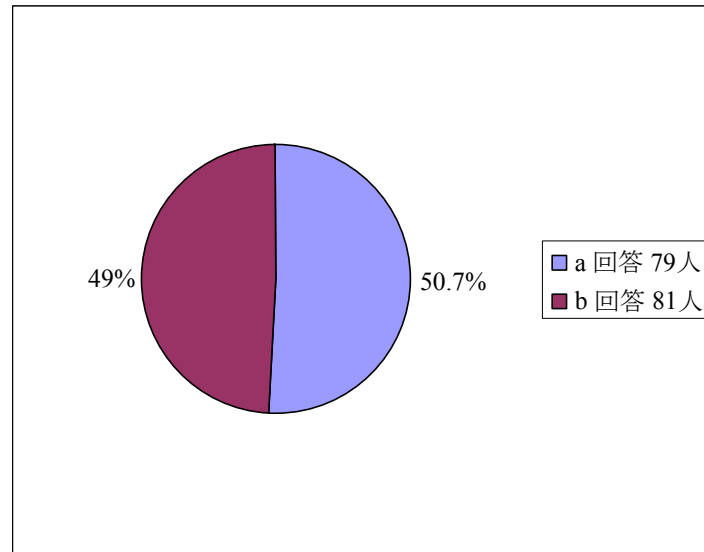
- a) 積極的に影響する。共通点があるから、適切な使い方になる。
- b) 消極的に影響する。共通点があるから、誤解されて、相違点が見えない

結果：

a 回答： 79 人 50.7%

b 回答： 81 人 49.3%

図 3.4.7 : 敬語の意味に共通点の影響

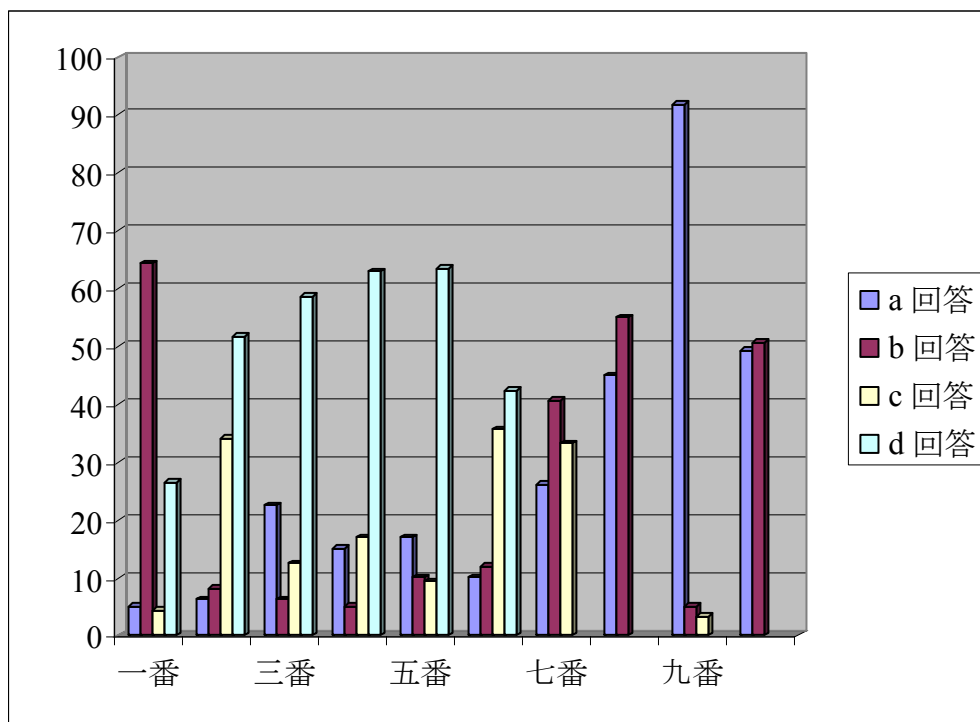


#### 評価と提案：

図 3.4.7 に「積極的に影響する。共通点があるから、適切な使い方になる」という 50.7%の意見（a 回答）がある。日本語とベトナム語の敬語の言い方は相手を高めて、自分を低める言い方である。「相手」は上司や目上の人や相手会社の人などである。「自分」は話し手や家族の人などである。ほかには、自分の意見を発表するときに謙譲語を使う。それは意味の共通点である。しかし、以上のような図表には「消極的に影響する。共通点があるから、誤解されて、相違点が見えない」という 49.3%の意見（b 回答）がある。だから、外国語を勉強するとき、学者は母語と外国語の共通点と相違点を見つけるのが必要である。それをよく理解すると、適切な使い方がある。そのために、先生や先輩に聞き、参考書や研究文献を呼ぶのほうが必要である。

### 3.11 図表：日本語の敬語に概括図表

単位：％



#### 結論：

要するに、アンケートの結果は日本語の敬語の教育に影響する要素がいろいろある。その中で、教程と教え方と勉強方法は大切な要素である。他には、社交文化や言語の特徴や呼称習慣などが影響することもある。その要素は積極的や消極的に影響するかもしれない。だから、日本語の敬語を教育するとき、いろいろなことに注意する必要がある。ベトナム人の学者に対しては、特別なのが「日本語とベトナム語の尊敬語 - 謙譲語の共通点と相違点」という関係を明らかにすることである。それなら、相手に誤解されずに適切な使い方になる。

# 結論

言語は文化の表現である。言語と文化は互いに依存し、互いに影響を与えている。外国語を勉強する場合、その国と民族の歴史文化を理解すれば、よりよくその言語をマスターできる。

言語は特定の社会に生まれたものである。言語の発展はその国と民族の風土人情、社会文化と深く関連している。同時に、言語と文化は互いに依存し、互いに影響を及ぼしている。異なる国家は異なる言語を持っている。それで、その国の文化をよく理解しなければ、その国の言語をよく把握できない。言語と文化はいつも密切に結ばれている。

要するに、文化を教えるのは外国語を勉強するときに大切な意味する。それぞれ国家の文化で共通点と相違点があるから、先生は間違えないように、学生に呼称の適切な使い方を案内してあげるという責任を負う。たとえば、通訳や翻訳などという仕事である。

# 参考文献

ベトナム語の文献：

- [1] ド フウ チャオ, 博士, “*Đại cương ngôn ngữ học*”, 教育出版, 2001.
- [2] チュ スアン チエン, “*Cơ sở văn hóa Việt Nam*”, ホーチミン市国家大学出版, 2002.
- [3] レ シ ジャオ、ホアン ルン、ラン バ ナン、レ ゴク タン、“*Dân tộc học đại cương*”, 教育出版, 2003.
- [4] グエン チエン ジャク、ドアン チエン ツアン, “*Dẫn luận ngôn ngữ học*”, 教育出版, 2003.
- [5] グエン ヴァン カアン、グエン カアン フ, “*Từ điển phép lịch sự và giao tiếp*”, 通信文化出版, 2000.
- [6] スアン ラン、タン ギ、ミン タン, “*Từ điển tiếng Việt*”, ベトナム言語学会, 1999.
- [7] チャン ゴク テン, “*Cơ sở văn hoá Việt Nam*”, 教育出版, 2000.
- [8] チャン ゴク テン, “*Tìm về bản sắc văn hoá Việt Nam*”, ホーチミン市出版, 1996.
- [9] グエン ミン ツウエン、グエン ヴァン ヒエ, “*Tiếng Việt Thực Hành*”, ハノイ国家出, 1997.
- [10] グエン テイ ホアン、チャン テイ キム スエン, “*Nhập Môn Xã Hội Học*”, ホーチミン市国家大学出版, 2005.
- [11] グエン ニウ エイ, “*Từ điển giải thích thuật ngữ ngôn ngữ học*”, 教育出版, 2001.

## 日本語の文献：

- [12] 平林周祐，浜由美子，“敬語”，荒竹出版, 1988.
- [13] 蒲谷宏，川口義一，坂本恵み，“敬語表現”，大修館書店, 1998.
- [14] 文化庁，“待遇表現”，大蔵省印刷局, 1998
- [15] 国立国語研究所，“敬語教育の基本問題”（上），大蔵省印刷局, 1998
- [16] 金子広幸，“日本語敬語”，トレーニング，アルク, 2007.
- [17] 小川誉子美，前田直子，“敬語を中心とした対人関係の表現”，スリーエーネットワーク, 2003.
- [18] 四田龍雄編，“言語学を学ぶ人のために”，世界思想社, 1986.
- [19] 玉村文郎，“日本語学を学ぶ人のために”，世界思想社, 2006.

## インターネットの文献：

- [20] [http://www.taybacuniversity.edu.vn/elib/Van%20hoc/Cac%20bieu%20hien%20cua%20lich%20su%20chuan%20muc%20trong%20xung%20ho%20\(TS.%20Vu%20Tien%20Dung\).pdf](http://www.taybacuniversity.edu.vn/elib/Van%20hoc/Cac%20bieu%20hien%20cua%20lich%20su%20chuan%20muc%20trong%20xung%20ho%20(TS.%20Vu%20Tien%20Dung).pdf)  
(Các biểu hiện của lịch sự chuẩn mực trong xung hô (ヴ テイエン ユン), ngày 10/04/2009)
- [21] <http://blog.360.yahoo.com/blog-q5NXAyUIdKgryoq7ew1pfQwF?p=23-bài> (Tôn kính ngữ và khiêm nhường ngữ, 10/04/2009)
- [22] <http://my.opera.com/meomeoconmeo/blog/b-ng-tngo-i-l>  
(Quy tắc và phân loại kính ngữ, 11/04/2009)
- [23] <http://www5.airnet.ne.jp/tomy/knowhow/sonkei.htm>  
(尊敬語使い方、14/04/09)
- [24] <http://oshiete1.watch.impress.co.jp/qa2694164.html>  
(謙譲語と尊敬語の使い方が分からない、14/04/09)

[25] <http://222.151.247.58/column/column4.html>

（敬語って、難しい、14/04/09）

[26] [http://detail.chiebukuro.yahoo.co.jp/qa/question\\_detail/q1014173675?fr=rcmd\\_chie\\_detail](http://detail.chiebukuro.yahoo.co.jp/qa/question_detail/q1014173675?fr=rcmd_chie_detail)

（謙譲語の定義、14/04/09）

[26] [http://home.alc.co.jp/db/owa/jpn\\_npa?stage=2&sn=53](http://home.alc.co.jp/db/owa/jpn_npa?stage=2&sn=53)

（いたすはするの謙譲語）

[27] <http://park2.wakwak.com/~lion/benkyou/kotoba-tukaiwake.htm>

（尊敬語と謙譲語、24/04/2009）



# 付録

## 日本語の敬語についてのアンケート

一番：現在、敬語の教程はどう思う。

- e) 教程の内容は豊かで、実際に使う場面、練習の宿題を出す。
- f) 教程の内容は制限で、あいまいで、分かりにくい。
- g) 教程の内容は社交文化を添付し、分かりやすい。
- h) 教程の内容は社交文化を添付しなくて、分かりにくい。

二番：敬語について教師の教え方はどう思う。

- d) 良くて、分かりやすく、活気な雰囲気、先生は場面を出し、学生はやって、練習する。
- e) 先生は学生を中心にしないで、練習場面を出さない。
- f) 授業で、先生は二つの国の社交や呼称文化を教えずに、教科書の内容だけを教える。だから、学生は二つの言語の敬語の共通点と相違点をまだ分らない。

三番：今は学生の敬語の学び方はどう思いますか。

- e) 消極的に学び、参考書やテキストなどを調べずに教科書だけに寄る。
- f) 積極的に練習し、先生や友達と会話し、日本語のセンターで塾する。

- g) 先生から教えもらうだけで、他の知識を全然補充しない。
- h) a 回答と c 回答

**四番：敬語の勉強で、学生を困らせる原因はなんですか。**

- e) 教程が少ないし、内容が豊かでないし、それに文化付録がない。
- f) 先生の教え方がつまらない。
- g) 勉強の意識が良くないし、消極的に学ぶ。
- h) a 回答と b 回答と c 回答

**五番：敬語をなめらか使えない理由は何か。**

- e) 日本の社交文化や敬語の場面や相手や使い方などがよく分からないから。
- f) コミュニケーションで小心で、自身を持たない。それに、ベトナム人のびくびくする性格であるから。
- g) 聴解能力が良くないから、会話の内容がよく分からないから。
- h) a 回答と b 回答

**六番：勉強している学校で先生の敬語の学び方を手伝う方法は何か。**

- e) 学生に日本人と会って話すチャンスを与えるためによく学校で日-越文化交流大会を行う。
- f) 工業団地の日本の会社で実際働く参加する学生に援助する。
- g) 何もない。
- h) a 回答と b 回答

七番：母語（ベトナム語）は日本語の勉強にどう影響するか。

- d) 日本語に翻訳したいときに、ベトナム語の相対的に人称代名詞や敬語の言い方を見つけない。
- e) ベトナム語は敬語の動詞や敬語の助詞などが無い。
- f) ベトナム語には、相手によって、一人称と二人称は変えることがあるが日本語が無い。

八番：社交文化と呼称の習慣は敬語の使用や外国語の勉強にどう影響するか。

- c) 積極的に影響する。文化と呼称は共通点があるから。
- d) 消極的に影響する。文化の相違点があるから、「文化ショック」を与える。呼称の習慣の相違点があるから、人称代名詞や言葉の使い方が分からない。

九番：文化と言語の関係をどう思う。

- d) 言語は文化を表すことで、文化は言語を受理する過程に影響する。
- e) 文化と言語のあいだは関係がない。
- f) 文化だけは言語に影響するが、言語は文化に影響しない。

十番：敬語の意味の共通点は敬語の勉強にどう影響するか。

- c) 積極的に影響する。共通点があるから、適切な使い方になる。
- d) 消極的に影響する。共通点があるから、誤解されて、相違点が見えない。